モントリオールへの道

ミュンヘン大会の前景気も相当なものだったが、モントリオール・ハンドボールへの関心、期待はむしろそれ以上の感じがする。

原因はいろいろあるだろうが、女子が初採用されることも大きな要素になっているようだ。

IHF（国際ハンドボール連盟）は、女子の実施によって男子の参加国数が削減してしまうことに反対を唱えていた時期もあるが、男女開催が決まってみると、各国からの反響は想像以上に強く、首脳陣も、この機をとらえて、一気に女子スポーツとしても、たしかな位置を占めようという考えに替った。

各国が、女子の採用を歓迎しているのは、これまではどちらかといえば健康・体育的見地から親しむ人が多かった女子ハンドボールを、これで競技力の面にも目を向けさせることができるからだ、といわれる。

とりわけ、西欧諸国でこの意識が強く、東欧勢上位に対して巻き返すきっかけにもする構え。

特に、女子球技として近代ハンドボールを創造した西ドイツの巻き返しは注目されるところで、オリンピック候補ともいうべき新ナショナル（24名）を早くも編成し終えている。

ところで、日本の情勢は大勢力である実業団がしのぎをけずりあいトップ層の実力はヨーロッパと比肩できるところまで来ているようだが、やはりヨーロッパの壁の高さ、厚さを世界選手権などの檜舞台で突き崩すにはキャリアの不足を否めない。

外国チームとの交流機会が少いのも一因だが、選手層、愛好者層が男子ほど拡く深くないのも大きいと思う。

これは、西欧諸国とは逆に、ハンドボールを健康の手段としてとらえる傾向が日本ではうすく、かなりハードなスポーツに受けとられていることが少からず影響している。

モントリオールに向けて、女子の頂点強化は、一にぎりの優秀選手群を徹底的に鍛えるほかはないといった声が聞こえるのも現情では、やむをえぬ一面をもっている。

オリンピックへの出場によって知名度を高め、それをきつかに大衆化を企るのも間違ってはいまい。

ヨーロッパとはまったく対照的な日本の〝立ち場〟だが、「モントリオール」を発展のステップにしようとしている点では同じといえよう。

市民ハンドボールの芽

ヨーロッパのハンドボール関係者が来て、どう説明しても首をかしげられてしまうのが「日本の実態」である。

つまり、日本ハンドボール界を構成するチームの大多数は企業や大学単独、高校単独であって、一般市民のクラブではないという点だ。

おぼろげながら認識した人でも最後に決まってこう質問する「ハンドボールチームのない企業や大学や高校に入った愛好者は、いったいどこでハンドボールをプレーするのですか。」

欧州通の光島磯雄氏（日本協会常務理事）によれば、今やハンドボールに限らず、日本のアマチュア・スポーツ界が〝熱心な〟企業によってささえられトップ層の大半が、実業団という名の下に集った社員選手または選手社員であることをヨーロッパの人たちは知っている、という。

そして、それはある面理解もされるのだが、市民クラブが不毛な点だけは判ってもらえないそうである。

特に、高校や大学時代に、その余暇をほとんどハンドボール活動に費しながら、社会人になるとプッと辞めてしまう（あるいは、できなくなってしまう）ことには、いくらクエッションマークをつけても、つけ足りないほどの〝疑問〟として映るらしい。

8月来日したIHF・ヒューベルク会長（本誌9頁参照）もクラブチーム、シビル（市民）チームが弱体であることに、別の意味で関心を示し、日本スポーツ界の体質に？を符して帰った。

日本における市民スポーツの発育不全は一朝一夕では改まらない大問題だと思うし、組織や体制に欠かんがあるとも思うが、例えばハンドボール人自らが、市民ハンドボールの育成にいったいどれだけ努力してきたか、という反省も忘れてはならないだろう。

特に、OBやOGになったあとも、自分の巣にこだわりすぎ、特定のかこみの中で動くに留りすぎたのではないか。

となり近所の者を集めて「草ハンドボール」を楽しもうという努力があまりにも少かったのではないか。

野球をやるのもよし、サッカーにつきあうのもよし。しかし三度目には「今度はハンドボールをやろうぜ。オレが教えるよ」と友人を誘ってみようではないか。

市民ハンドボールの芽はそこここに無数に散っているハズだ

「ハンドボール」 49年9月号（第123号）目次

【表紙写真】 全日本高校選手権男子決勝・久留米工×小倉西戦 久留米工の攻撃（8月7日・北九州市総合体育館）

【撮影・山田真市】

東ドイツ、最強の布陣で来日

全日本〝東欧の壁〟に意欲的な挑戦

爽秋のスポーツシーズンへき頭を飾る東ドイツ（ドイツ民主共和国）男子ナショナルチームとの国際親善試合（全6戦）が注目のうちに、その幕をあける——今春の世界選手権で準優勝、2年後のモントリオールオリンピックで金メダル獲得を本命視されている東ドイツは、東欧優勢の世界ハンドボール界にあってルーマニア（世界1位）、ユーゴ（ミュンヘンオリンピック1位、昨秋来日）とともにその中心勢力、最強の攻守をもって鳴る国だ。

日本協会では、モントリオール強化対策の一つとして東欧有力国の招へいを検討、幸にも今年から本格化された日本体育協会の「日本—東ドイツ交流事業」に組みこまれたため、一気に今シリーズの実現へこぎつけたものである。

ハンドボールファンはもとより近来各スポーツにめざましい躍進を示す東ドイツの、しかも国技ともいうべきハンドボールチームの来日とあって一般スポーツファンをはじめ、内外関係者の関心も高く、全日本が対戦する4試合はいずれもテレビ中継される。

迎え撃つ日本チームは、モントリオールへ向けて本格的なスタートを切ったばかり、キャリア豊かなベテランと気鋭の新進による全日本を編成、〝東欧の壁〟に意欲満々の挑戦である。

このほか、全日本チャンピオン大同製鋼（愛知）と県協会創立25周年記念事業と銘打って全兵庫が対戦する。

東ドイツチームは8月30日午後東京・羽田国際空港着の予定。

モントリオール目指す陣容

速射砲ガンショウが来る。巨人ケーラートが乗りこんで来る…。昨秋のゴールドメダリスト・ユーゴ来日をしのぐ興奮を呼びおこしそうである。

スポーツ王国・東ドイツにあってハンドボールはまさに国技。他競技でみられるような組織的計画的なスポーツ路線は、ハンドボールにおいても例外ではなく、ナショナルプレイヤーともなればそれはエリート中のエリートということになる。

ましてや照準は2年後のモントリオールオリンピック金メダル。

ベテランと若手をミックスさせた布陣は、近代ハンドボール史上最強と呼ばれる日も近く、すさまじいばかりの気力執着力をともなった迫力ある攻守は、日本の関係者の目を奪うにちがいない。

注目の左腕ガンショウ

実は、本誌〆切り（8月20日）までに、東ドイツ側からは、いっさい来日メンバーの連絡がなく、日本スポーツ少年団の団長として渡欧中の荒川清美理事長が、8月上旬、電話連絡した時も「遠征メンバーはまだはっきりしない」ということで、日本協会や各主管協会関係者はやきもきしていたのだが8月20日午後になって法務省入国審査課のルートから、来日申請者のリストを入手(次頁参照)、そうそうたる顔ぶれが確認されたのである。

主役はなんといってもガンショウ（エムポール・ロストック）だ。184cmとかならずしも長身ではないが、秀れたジャンプ力とスナップを活かし、その左腕から繰り出されるシュートは、矢のような速さで突き刺さる。

名だたる各国のGKが、ガンショウのシュートには、一歩も動かぬまま、ゴールを射抜かれた経験を持ち、ヨーロッパのある記者は「ガンショウの前には、どんなGKもデクの捧に見える」と云ったほど。159回という国際経験が示すように、単にシューターとしてだけではなく、パッサーとしても抜群のセンスがある。ミュンヘンでは東ドイツ最高の20ゴール（6試合）をマーク。現代最高の左腕選手である。

2m選手・ケーラート

2mプレイヤー・ケーラート（DHfk・ライプチヒ）の登場も話題だ。

日本のコートで2m選手がプレーするのはブッシュ（西ドイツ・GWダンケルセン、47年来日）についで2度目だが、ケーラートは世界ハンドボール史上攻守の技術に於いて、最初の本格派ということができる。

ミュンヘンの時には、名簿にさえ載っていなかった選手だが、どちらかといえば、それまでは速さと技巧、組織プレーを身長とした東ドイツが、パワーフルな攻撃をも加味しようと目指し、そこで加えられたのが彼である。

世界選手権ではガンショウとともに25ゴールをあげて藤中（日本大同製鋼）につぎ個人得点6位。このうち10点が7MTである。まだ23才の若さ、今後どこまでそのスケールを伸ばすか注目してよい。

ベテラン・ラケンマハー（SC・マグデベルグ）の名を聞いて久しい。すでに引退しているチンマーマン、ゾエルマッハらとともに東ドイツを世界の最上位へ引きあげるために奮戦しつづけた選手だ。

パスしてよし、射ってよしの巧者で、攻撃の展開にはなくてはならぬ存在である。

ベーメら若い力示す

本誌でもこれまでに紹介されているが、東ドイツは、今春の世界選手権に、ミュンヘンとはがらりとちがったメンバーで臨んだ。

誰もが、地元での世界選手権だけに、優勝を狙って、若返りは、選手権後と見ていたのだが、実に思い切った策を採った。

そのなかで、ベーメ（エムポー

日　程

①8月31日（土）東京体育館
　15時30分・対全日本（NHK—TV）
②9月1日（日）東京体育館
　14時・対全日本（TBS系TV）
③9月4日（水）名古屋・愛知県体育館
　17時30分・対大同製鋼
④9月6日（金）神戸市中央体育館
　18時・対兵庫選抜
⑤9月7日（土）大阪市中央体育館
　13時30分・対全日本（MBS系TV）
⑥9月8日（日）京都府体育館
　14時30分・対全日本（近畿放送系TV）

ル・ロストック）は、GKを除いて若手のうち唯一人、ミュンヘンから連続出場している有望株である。

その時にもレギュラーとしてのポジションを与えられているのだから期待の大きさも判ろう。

均整のとれた身体でオールラウンドなプレーをこなす。

ヒルデブラント（ディナモ・ベルリン）もミュンヘン組だがもう中堅といってよい。東ドイツ選手としては大柄で、派手さはないが要所にみせる巧技はこのチームの攻撃力をいっそう厚味のあるものにしているようだ。

エンゲル（ASK・V・フランクフルト）の存在も見落せない。

世界選手権では毎試合コンスタントにポイントをあげており、ヒルデブラントとともに、間もなく東ドイツの柱になるべき選手といえる。

日本遠征で若手をテスト？

ユーゴやスウェーデン（昭46来日）もそうだったが、東ドイツも今回の遠征に、23才以下のいわゆる若手を何名か加えてくるようだ

今のところFPではケーラートを除くと7人の名が出ているが、P・ロスト（SC・ライプチヒ）はすでに実績もありテクニシャンぶりを発揮しそう。

デーリング（DHfk・ライプチヒ）や、D・シュミット（ASK・V・フランクフルト）も大きな舞台を踏んでおり、ここらあたりの成長が、案外金メダルへのカギになるかもしれない。

グルーナー（SC・ライプチヒ）は、身長に恵れ、仮に来日すれば一つのテストしてそのプレーが、コーチングスタッフにチェックされることになるだろう。ザイラー・コーチは彼の将来を非常に高く買っている。

クラール（SC・ライプチヒ）は、世界選手権ではエントリーされながら、いちども出場の機会はなかった。

ソツのないGK陣

対照的にベテランではJ・ロスト（ディナモ・ベルリン）、ピーチュ（ASK・V・フランクフルト）が顔を揃え、場合によっては、ミュンヘンを最後に第一線から退いたかたちになっているクラウス・ラングホフ（34才、エムポール・ロストック、185cm、83K）がコーチ兼任で来日するかも知れないと伝えられている。ミュンヘン、世界選手権の両大会に出たローゼは遠征メンバーからもれている。

GK陣は、予想どおりフォークト（DHfk・ライプチヒ）、ヴァイス（ディナモ・ベルリン）、W・シュミット（SC・マグデベルグ）の3人のようだが、主戦はミュンヘン―世界選手権のメンバーであるフォークトとヴァイス。

東ドイツのゴールは、永くフリエスク（引退）が守っていたため、フォークト、ヴァイスとも、意外に国際舞台で話題になるような活躍は記憶にない。しかしFPとの連けいが巧く、ともにソツのないキーピングは定評がある。

『東ドイツ（来日予想メンバー）』

▽団　長　レイニング・ハリー（47才）
▽コーチ　ハインツ・ザイラー（54）
　　　　　ポウル・ティーデマン（39）
▽ドクター　ペーター・ルック（32）

▽GK	身長	体重	公式国際試合出場		職業
★☆S・フォークト（23才）	182cm	83kg	66回	・	学生
★☆K・ヴァイス（29）	195	95	60	・	旋盤工
★W・シュミット（20）	184	72	2	・	旋盤工
▽FP					
☆A・ケーラート（23）	200	96	35	㉕	電気技師
☆H・エンゲル（26）	190	88	41	⑪	陸軍兵士
★☆J・ヒルデブラント（26）	190	87	86	⑥	学生
K・グルーナー（22）	187	80	3	・	学生
★☆W・ベーメ（24）	186	85	76	⑱	技師
☆L・デーリング（23）	186	88	7	・	学生
☆J・ピーチュ（27）	186	84	46	⑦	工員
★☆R・ガンショウ（29）	184	90	159	㉕	技師
☆E・クラール（22）	183	85	22	・	鉄道技師
☆P・ロスト（23）	183	84	47	⑫	錠前工
★☆W・ラケンマハー（30）	182	87	151	㉓	教員
☆D・シュミット（22）	181	85	22	①	錠前工
☆J・ロスト（29）	173	73	4	③	トラクター運転士

・右欄○内数字は今春の世界選手権における得点
・公式国際試合出場回数は今春の世界選手権終了時

『全　日　本』

▽監　督　竹野　奉昭（38才）日体大出
▽コーチ　東　　嘉伸（38）　日体大出

▽GK	身長	体重	公式国際試合出場
★☆①本田　洋（27才，大阪イーグルス）	178cm	77kg	41回
⑫斉藤将一郎（21．日体大）	187	85	初
▽FP			
☆②蒲生　晴明（20．中大）	192	87	12
★③有永　修二（25．大阪福島ク）	187	83	20
★④飯田　誠行（28．大崎電気）	187	78	39
☆⑤菊池　悟（22．早大）	185	85	12
★☆⑥木野　実（28．湧永薬品）	181	76	50
★☆⑦中井　武三（25．大同製鋼）	180	74	28
⑧松原　光三（24．大同製鋼）	180	72	初
⑨津川　昭（22．湧永薬品）	180	74	初
⑩穂積　豊彦（22．湧永薬品）	180	75	初
⑪平野　稔（21．海上下総）	180	76	初
☆⑬佐藤　要二（24．本田技研）	180	78	12
☆⑭藤中　憲二（26．大同製鋼）	178	72	30
☆⑮花輪　博（24．大同製鋼）	177	72	10
⑯斉藤　幸司（20．日体大）	175	73	初
☆⑰村田　幸男（20．法大）	175	68	10
★⑱佐々木健一（24．三景）	170	74	6

・○内数字は背番号
・★印はミュンヘンオリンピック　☆印は世界選手権出場（今春）を示す

ところで、東ドイツが〝世界〟のスポットライトを浴びて活躍しはじめたのは、そう遠い昔のことではない。

近代ハンドボールはドイツが主源流であり、第2次世界大戦で東西に分裂する悲劇に見舞われたものの、その両国で根強く伝統は受けつがれ、特に東ドイツでは、急速な発展を示した。

しかし世界選手権などでは「統一ドイツ」で出場した際に上位進出の記録はあるが、単独では、不思議にヨーロッパ予選で、他の強豪と星をつぶしあって浮かびあがれず、6年ぶりに出場した第7回大会（昭45、フランス）で決勝へ進出したのが、最初の躍進といってよいだろう。

この時、ルーマニアと史上に残る延長の大激斗を演じ12－13で惜敗、ミュンヘンオリンピックでは予想外にふるわず4位に留った。

そして、今春、自国に2度目の世界選手権（注、最初は昭33の第3回大会）を招き、順調に決勝へ勝ちあがったものの、またしてもルーマニアの軍門（12－14）に降った。

しかし、国をあげてスポーツを奨励し、選手スポーツ（頂点強化）と市民スポーツの歯車を巧みにかみあわせる体制のバックアップを得て、ハンドボールは数多い同国のスポーツ界のなかでもメイン・スポーツ。いわゆる選手人口は男子5万、女子1万5千と伝えられる。

ちなみに、男子は11人制世界選手権（現在廃会）では第5回大会（昭34）に統一ドイツで優勝、第6回大会（昭38）ではワールド・チャンピオンとなっており、女子（7人制）は、第4回世界選手権（昭46）にいちど優勝を飾っている。

ヨーロッパカップ（単独チームの選手権）でも、7年前に男子がSDHfk・ライプチヒ、女子がSC・ライプチヒでタイトル獲得という偉業を遂げている。

8ケ月に亘る国内リーグ

国内のシステムは、市町村リーグなどいわゆる底辺での活動からナショナルリーグまで組織化された二千余チームの頂点に立つナショナルリーグの激戦は、サッカーと並んで冬の東ドイツでは人気を一身に集めている。

今春の世界選手権で顔を合せた日本と東ドイツ（白）の熱戦。東ドイツはこの大会でシュート率57％と列国2位の成績をあげたが，シュート阻止率も57％（4位）と高い。日本は8位と12位。（光島磯雄氏提供）

男女とも10クラブが3回総当り各135試合、約8ケ月にわたる長期戦を展開するわけだが、実力伯仲ホームタウンの熱烈な声援を背にうけて激突をくり返すうちに、いやでもトップ層の実力は引きあげられてくる。

参考までに昨シーズン（48年7月～49年1月）の結果は①ASK・V・フランクフルト21勝4分2敗②SC・マグデベルグ③エムポール・ロストック④ポスト・シュウエリン……。女子はTSC・ベルリンが優勝した。

男子の得点王にはH・フラッケ（SC・マグデベルグ）が185点をあげてなったが、彼はナショナルプレイヤーではない。

来日メンバーの記録をみるとケーラートが179点で2位、P・ロストが147点で4位、J・ロストが139点で5位。ガンショウは124点で6位。

各クラブとも専用の体育館をもち、二～三千人の観客を収容することができる。これらのクラブやジムナジアムは、選手強化の温床ともなる一方、一般市民の手軽な機関・施設として利用され、各種各層の人がスポーツに親しんでいる。

来日選手の職業（前頁）へごら

んいただければ、その多様さを判っていただけよう。

幅の厚い全日本選手層

さて、迎える日本側の情勢はどうか。

本誌既報のとおり、日本協会は頂点強化のいっさいを技術部にゆだね、新しい全日本の編成を急いでいたが、7月末、東京で31名の候補選手(注、氏名は公表しない)による強化合宿を行い、竹野（監督）、東（コーチ）、渡辺（技術部長）の3氏が協議した結果、とりあえず、別掲（前頁）のような東ドイツ戦のための全日本を編成、モントリオール・オリンピックの第1次候補選手を兼ねるとみられる「昭和49年度ナショナル」のリストアップは、東ドイツ戦後改めて行うことに決まった。

ナショナルチームは、24名以内という申し合せがあり、常識的には、東ドイツ戦の18名に6名以内が加えられるとみたいが、竹野監督は「東ドイツ戦の18名をそのまま残すとは限らない」と厳しさをにおわせている。

今回のメンバーで注目されるのは、今春の世界選手権代表に、ミュンヘン・オリンピック代表勢がカムバックをはたし加えられている点だ。

木野、中井、本田（GK）を要に藤中、佐藤らが主軸となっていたところへ、強打の飯田、有永の左右コンビ、巧者・佐々木らミュンヘン組が戻り、蒲生、菊池、村田らの若手を引っぱるのは興味深い。

ベテランと若手の中間を花輪、松原、穂積、津川ら実業団のホープたちでつないでいるのもいい。

日本のトップ群の厚味もかなりになってきたものだ。

蒲生、菊池、村田の学生トリオは、世界選手権出場で「世界の広さ」を改めて認識し、それが新たな意欲にもつながっている。期待してよいだろう。

平野、斉藤(幸)両新人の動きも一つの焦点。

平野は、ヤング全日本から唯一人の〝昇格〟で、自衛隊球界から生まれた初のナショナルプレイヤー。左右両利き、スケールの大きい攻撃力は将来を楽しませる。

斉藤(幸)は貴重な左腕。竹野監督は「欧州型のプレーをこなす選手」と高く評価しており、有力選手の中で、どうその素質の花を咲かせるか、見守りたい。

GKは、いぜん本田が頑張る。旺盛な研究心と斗志は劣えるところを知らず、ますますその技は円熟してきた。

控えに斉藤(将)が選ばれた。秀れた運動神経の持ち主で、大学からハンドボールをはじめたハンデも日ごとに解消している。ここでじゅうぶんキャリアを積んで欲しい。

「勝利」めざす斗志を期待

日本は勝てるだろうか。卒直に云って東ドイツは荷の重い相手だ今春の世界選手権予選リーグで対戦、16—31で敗れた〝後遺症〟もある。

だが、周囲はその〝甘え〟を許していない。

執行部内にも「全日本の4戦はテレビ中継されるのだから、少くとも5点内の善戦、あわよくば1〜2勝はあげて欲しい」という声がある。

竹野監督、東コーチは、じゅうぶんにこの点を承知で、社会人は国体予選、学生は夏季合宿の行われる8月に、各選手の所属チームを説得して、炎暑のなか通算10日間の強化合宿を行った。

幸いにも、日本チームは、ミュンヘン前から、どのような相手にとっても劣等感をもたずに立ち向かえるたくましさを身につけている。結果的には大敗になったが東ドイツ戦も前半は互角の戦況だった。

ハタで騒ぐ以上に〝勝利〟に燃えているのは選手たちだ。

この斗志に大いに期待をかけておこう。

大同製鋼(第3戦)、兵庫選抜（第4戦）の意気ごみは、ある面で全日本以上だ。

大同は、ビッグゲームになればなるほど力を発揮する野田（元全日本）が、手ぐすねひいて待ち構えている。昨秋のユーゴ戦で善戦（16—26）したのも好材料。藤中ら5人が世界選手権で東ドイツと戦っているのも心強いだろう。

「一あわふかせたいですね」と中浜監督も胸中に秘策ありといった感じ。

全兵庫は41年秋の中国戦以来2度目の国際試合。

「勝負は度外視、食い下れるところまで追いこんでいく」と先制攻撃にすべてをかけているが、パワーのある松岡（スワロー兵庫）が好調ならば面白くなりそう。

再び〝ユーゴ戦〟時の活況を

昨年秋、ミュンヘンのゴールドメダリスト・ユーゴを招いて日本のハンドボール界は沸きに沸いた。同国に優るとも劣らない東ドイツの来日は、再び国内スポーツ界の話題を独占するだろう。

そのためには、全日本の健斗、ファンの熱心な声援をかかすことができない。

◇資料・過去の対戦記録(1試合)

‖昭和49年2月28日・東ベルリン・第8回世界選手権予選リーグC組第1日

東ドイツ 31 (18—7, 13—9) 16 日本

【日本】	得		得	【東ドイツ】
本田	0	GK	0	フォークト
柳川兄	0	GK	0	ヴァイス
木野	2	FP	7	ガンショウ
藤中	6	FP	3	P・ロスト
佐藤	4	FP	0	ヒルデブラント
蒲生	0	FP	4	ベーメ
花輪	1	FP	7	ラケンマハー
中井	2	FP	2	エンゲル
菊池	1	FP	3	ピーチュ
村田	0	FP	4	ケーラー
大江	0	FP	1	ローズ
柳川弟	0	FP	0	D・シュミット
7MT (0)	16		31	(4)

31名でまずセレクション　全日本女子

全日本女子のコーチングスタッフ（井監督、鈴木、池田、藤原各コーチ）は、8月4日、日本協会渡辺（慶）技術部長と、今後の頂点強化と、ナショナルチームの編成について話しあった結果、9月11日から15日まで栃木県大平町の日立栃木で候補選手によるセレクションを行い、その結果をみて、早ければ9月下旬に24名以内の49年度ナショナルプレイヤーを決定することになった。

この申し合せは、8月9日の第3回3部合同会議に報告されたがセレクション（候補合宿）に参加するのはコーチングスタッフによってリストアップされた31名で、このうち27名が実業団の所属、4名が現役学生である。（注、氏名は発表されない。）

中国、ベールぬぐ国際試合

ルーマニア（チミソアラ工業学院）が遠征して交流

その動向を注目されながらまったく実態が不鮮明であった中国ハンドボール界の消息が8年ぶりにもたらされた。ルーマニアのチミソアラ工業学院大学（同国第4位）が、このほど中国遠征したニュースを別掲のように共同通信社（北京・中島特派員）が報道したもので、ベールにつつまれていた文化革命後の中国ハンドボールが、以前にも増して活気にみちていることが判り、日本協会関係者も、これからあと、中国がどのような動きを示すか、注目をもって見つめている。

鳴りひそめていたこれまで

文化革命後、各スポーツがつぎつぎに国際舞台へ再登場しているなかで、ハンドボールだけはまったく鳴りをひそめていた。

それが、一昨年くれあたりから「どうやら復活したらしい」という情報が伝わりはじめた。訪中した体協関係者、報道関係者からも「北京でハンドボールのゴールポストを見た」「上海でハンドボール（球）を売っていた」などといった声が、日本協会関係者の耳へ入るようになり、昭和47年秋から48年初春の間に、中国手球委員会（注・中国ではハンドボールを手球と標記する）が再発足したことが確定的とみられるようになった。

しかし、その実態はいぜんとして判らず、IHF（国際ハンドボール連盟）筋からも、なんの動きも探れぬままで、協会再発足説について、なお首をかしげる人も多かったのである。

結びつき深いルーマニア

日本協会が、中国ハンドボール界について具体的な動きを知ったのは、今春2月、世界選手権（男子）アジア予選のウィットネスとしてテルアビブ（イスラエル）へ赴いた渡辺和美IHF理事（日本協会副会長）が、同席したI・クンストIHF技術委員（ルーマニア）から「今夏、ルーマニアの学生チームが中国遠征する」という話を聞き出した時～本誌117号所報～が最初だ。

中国とルーマニアとの結びつきは深く、昭和35年6月日本遠征に向かうルーマニアナショナル（11人制）が中国へ立ち寄り8試合（ルーマニアの6勝2敗）を交えている。

また、46年11月、ミュンヘンオリンピックアジア予選のため来日したIHFの重鎮E・ホルレ技術委員長（現在は審判規則委員長）が、東京での記者会見席上「もし中国がIHF加盟を望む場合は、ルーマニアあたりを通して申請するのではないか」と云っていたことも思い出される。

はたして中国は、文革後最初ともいうべき動きをルーマニアチームを招いて示し、しかも、かなりの実力であることを明きらかにしたのである。

〝以前に増して活気〟

村岡久平氏に聞く

記者は幸にも、中国×ルーマニア（チミソアラ工業学院）戦を観た村岡久平日中文化交流協会事務局次長と会う機会があり、中国ハンドボール界のアウトラインを聞くことができた。

―　中国ハンドボール界の動きを久しぶりに耳にして日本協会関係者は大きな関心を寄せているが

村岡氏　9年前中国に日本チームが遠征した時よりも、むしろ中国のハンドボール熱は高まっている印象をうけた。

ルーマニアとの第1戦は、いろいろな国際スポーツ試合を見なれた北京の人たちの間でも、すばらしい人気で、その入場券の売れ行きは近来になくよかったそうだ。

―　中国のハンドボール関係者とお会いになったか。

村岡氏　会った。男子は完全に復活、女子はまだ普及していないということだったが、彼らも以前にも増してハンドボールが盛んになっていることを認めていた。

特に、北部地方は寒さが厳しく室内スポーツが大いに奨励されており、ハンドボールはかっこうのスポーツといえる。

今、中国ではサッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントンを「五大球技」といっているが、これにハンドボールを加えて「六大球技」という時代がすぐ来るかも知れない。

―　具体的にはどのような動きがあるのか。

村岡氏　来年上半期に全国選抜大会が開かれ、来年9月の第3回中国運動大会の実施種目（現在は28競技）に加えられるのも確定的のようだ。

―　今回対戦したのはナショナルチームか。

村岡氏　その前の段階ということだった。「中国選抜」となっているのはそのためだ。

国際的レベルにあるのは5～6人だそうだが、上海、江蘇省など中国中部に優秀選手が多く居る。

―　ルーマニアとは何試合行われたのか。

村岡氏　私は第1戦を観ただけだが、さらに北京、南京、上海で1試合づつ行うと云っていた。

―　第1戦の印象は。

村岡氏　チミソアラ工業学院には5人のナショナルプレイヤーが加っていると伝えられており、その長身からの攻撃に中国はだいぶ得点を許した。

中国は下からえぐるようなシュートとサイドからの攻撃が多く、後半、相手が若手メンバーに切り替えてからスコアを詰めた。

―　日本との交流については。

村岡氏　意欲はあるようだ。

〝実力〟もみごとに復活

ご承知のとおりルーマニアは現在世界最強のチーム。今春の世界選手権で2連勝、2年前の世界学生選手権でも優勝と、男子では正にパーフェクト。国内における層の厚さも定評がある。訪中したチミソアラ工業学院は、6月末に終

ったルーマニアリーグ（国内選手権）では堂々4位になった強豪である。

世界選手権のプログラムを見ると同学院所属のナショナルプレイヤーはグネスク（FP、196cm）一人だが、あとの4人がどのような顔ぶれであれ、このチームに対して互角に近い試合をくりひろげた中国の実力は、ブランクを感じさせないほどのみごとなもの、と云ってよいだろう。

来日メンバー（昭41）が健在

村岡氏によれば、中国側の陣容で目立ったのは、昭和41年9月に来日した中国ナショナルのさい配を揮った陳梅全氏が相変らず監督を務めているほか、選手も三分の一ほどが、この時のメンバーだった点だ、という。

なかでも、来日時、21才と最年少だった胡亦成（当時186cm、84K）が、すっかりエースとして成長しているようだ。胡はこの時も20点（9試合）を叩き出している。

ちなみに、日本遠征で最高の43点をマークした楊霊藩（当時178cm 79K）38点をあげた劉延江（当時180cm、80K）左腕で日本勢を苦しめた卜憲章（当時179cm、75K）は三人とも36才になっているハズ、いくらなんでも彼らは"勇退"してるだろう。

当時の構成（選手13名）をみると30～32才が5名、25～29才が6名、24～21才が2名となっており日本でもナショナルプレイヤーとしてこの時デビューした木野（湧永薬品、当時立教大）、飯田（大崎電気、当時同志社大）がいぜん健在なことからすれば、8年たった今中国勢に主力が残っているのも肯けよう。

「極端に年令をとった選手と極端に若いプレイヤーで固められていた」（村岡氏）そうだから、あるいは楊らが元気なことも考えなくてはいけない。

改めて中国問題検討　日本協会

ところで、中国ハンドボール界は今後どのような動きをみせるだろうか。

特に日本との関係、国際舞台（IHF）への登場は大きな関心事である。

日本協会関係者は、これまで中国ハンドボール界の実態がつかめずとあって、静観の態度をとりつづけ、わずかに48年1月21日の全国評議員会、同理事会で「中国承認の方針を打ち出した日本体協、JOC（日本オリンピック委員会）の見解を尊重する。」～本誌105号所報～との基本方針を議決しているにすぎない。

今回はっきりと、中国ハンドボール界の"存在"が伝えられ、日本協会にとっては、これから初めて「中国問題」が話し合われる、というのが実情である。

中国はこれまでいちどもIHFには加盟していない。現在、それを望んでいるかどうかも不明だが少くとも他のスポーツの国際復帰時に示した「台湾との同席拒否」という大前提があるだけに、日本協会としても、日本体協、JOCの見解尊重を決めながら極めて慎重である。

IHFは「台湾追放が条件ならば、中国の加盟は認めがたい」としており（注・本誌9頁ヒョーベルグIHF会長談話参照）問題は微妙。今秋に予定される全国会議で検討されれば、かなり白熱した議論になるだろう。

交流期待する技術分野

一方、強化・技術サイドや男子有力チーム関係者間では、中国との積極交流を望む声が圧倒的だ。

IHFに加れば、当然、世界選手権やオリンピックへの出場を望むであろうし、アジア予選での顔合せは必至。「その時にまったくデータが白紙であってはなるまい」（某有力実業団監督）。ちなみに、IHF未加盟国との交流については、渡辺IHF理事によれば「加盟意思のある国とならばさしつかえない」ことになっている。

ようやくにして手に入れた中国ハンドボール界復活のニュースは同時に「中国問題」を前面へ押し出すきっかけともなったようである。（杉山）

中国ハンドボール界の"復活"を伝える共同通信社電（8月11日）

○……文革後の中国で初めてのハンドボールの国際試合が10日夜、北京市西郊の首都体育館で一万八千人の観衆を集めて行われた。

対戦は中国選抜チームとルーマニアのチミソアラ工業学院チーム。ルーマニア・チームには世界チャンピオンの同国ナショナルチームの選手5人が加わっており、前半はルーマニアが押して11―8とリード。

後半は一進一退の接戦となったが、結局20―17でルーマニアが勝った。

ハンドボールは一九六六年（昭41）九月、中国チームが訪日したのが最後の日中交流となりその後中国内での存在が注目されていたが、今回の試合で現在も続けられていることがわかったわけである。

観戦した村岡久平日中文化交流協会事務局次長によれば、当時訪日した陳梅全監督がこの日も監督を務めたほか、当時のエース胡亦成らも中心として活躍しており、会場は熱心なファンで大変な熱気に包まれたという。

【この記事は共同通信社のご厚意で掲載したものです】

資料・日本、中国の対戦記録

◇全日本男子遠征（昭和40年4月15日～5月8日、全8戦）

広州選抜 29―19 日本
日本 30（13―10、17―10）20 安徽選抜
中国 26（13―8、13―6）14 日本
全上海 26―18 日本
中国 26（13―7、13―7）14 日本
安徽選抜 19―15 日本
中国 22（12―7、10―9）16 日本
北京学生選抜 16―15 日本

◇中国男子来日（昭和41年9月15日～10月5日、全9戦）

芝浦工大 23（16―7、7―14）21 中国
中国 24―14 全愛知
中国 27―10 全静岡
中国 14―13 全大阪
中国 31―16 全兵庫
中国 35―14 京都学生選抜
中国 31―13 全福岡
中国 24―11 全山口
中国 18（8―7、10―10）17 日本

緑につつまれた近代的な工場で生まれる――――

クールな世界の代表選手

日立ドライエアコン
RAS-229DY

日立冷凍冷蔵庫
R-204TP

ダイナミックな生産設備と徹底した品質管理のもとに、〈技術の日立〉にふさわしい製品を世に送りだすため、たゆみない努力を続けています。

株式會社 日立製作所 栃木工場

栃木県下都賀郡大平町富田800　〒329-44 TEL.02824－3111

〝見通しある「大陸代表案」（モントリオール女子）〟

ヒュークベルグＩＨＦ会長が来日

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）のポウル・ヒュークベルグ会長（スウェーデン、64才）〜写真〜は、台湾協会の招待で同国を訪れた帰途、日本に立ち寄り8月11、12の両日東京に滞在した。

日本協会では12日、田村正衛会長、徳永陸繁副会長（理事長代行）、滝口三郎渉外担当常務理事、久田暁国際担当理事の4氏が宿舎に表敬訪問、そのあと40分にわたり、日本—ＩＨＦ間の諸問題につき談合した。

この会議には、台湾招待に同行したＩＨＦフレッドスルント・Ａ・ペデルセン財務部長（デンマーク、58才）と渡辺和美アジア選出理事（日本協会副会長）も同席した。

ＩＨＦ会長が日本を訪れたのは昭和31年9月、第2代会長ハンス・バウマン氏（スイス・故人）が西ドイツナショナルの来日に同行して以来、2度目のこと。

ヒュークベルグ会長と田村会長らの会談要旨は次のとおり。

——今回のアジア旅行の目的は

ヒュークベルグ会長「台湾オリンピック委と同ハンドボール協会に招待されたものだ。渡辺理事のお骨おりで日本やホンコンにも立ち寄ることになった」

——アジアのハンドボールについてどのような考えをお持ちか

会長「日本が中心となって着実な歩みをしていると思う。今回台湾に行ってよく判ったのだが、マレーシア、シンガポールなどでも普及しつつあるようだし、タイ、インドネシアでも関心を持ちはじめていることをＩＨＦは識っている」

——中国についてＩＨＦはどう考えられるか

会長「ＩＨＦはルールを守る国ならばいかなる国も歓迎する。しかし、中国は、ハンドボールはなかなか盛んなようだが、まだ正式な加盟申請は届け出されていない。

現時点で言えることは、台湾追放を前提とするならば、中国の加盟は「ノー」である。

台湾は、従来から善良なる加盟国だし、その活動、特に他国へも普及させようとする努力を高く評価したい」

——モントリオールオリンピックの女子参加国について、日本協会はＩＨＦ原案の修正を求めるいわゆる「3大陸代表案」（注・本誌119号参照）をＩＨＦに対して提出中だがどうお考えか

会長「日本の提案を尊重する。ハンドボールは、もはやヨーロッパだけのスポーツではなく、世界のものになってきたし、我々はじゅうぶんこの点を認識している。

日本の望む件については、10月の理事会で検討し、その直後イタリアで開かれる第14回ＩＨＦ総会にかけるつもりだ」

——見通しはどうか

会長「当然のことながら3大陸の関係諸国は大賛成するだろうし、投票にもちこめば、加盟国がいちぢるしく増加しているアフリカ地域の票を得られるので有望だろう

しかし、ヨーロッパ、特に社会主義諸国は強く反発するので楽観は許されまい」

——仮にこの提案が通った場合どのような予選法が考えられるか

会長「3大陸の代表を集め改めて予選を行うのは不経済だし、私個人は、第5回世界女子選手権（50年12月、ソビエト・キエフ市）に参加したヨーロッパ地域以外の国のなかで、同大会での最高順位国に「3大陸代表権」を与えるのもよいのではないか、と思っている」

渡辺理事は、世界女子に出場した3大陸の代表が、世界選手権とは別に、大会直後、ソビエト国内で〝予選〟したらと考えているようだが、これも一方法だろう」

——モントリオールオリンピックの男子アジア予選について。

会長「これは、むしろ私のほうから日本協会のかたに聞きたい

ミュンヘン時とはちがい、今回はアラブ諸国や、場合によっては北朝鮮も参加資格を得るかも知れない。

今までよりいっそう困難が予想される……」

——外交問題がからんで日本協会としても困惑している。変則的ではあるが、「東アジア」「西アジア」に分けてまず第1次予選を行い、その勝者同士でアジア代表権を争う方法も考えたいが……

会長「（渡辺理事に向かって）ホンコンは〝中立〟的な立ち場にあり、ここでアジア予選を開けないものだろうか……」

——最後に日本のハンドボール界について、会長はどの程度識っていられるか

会長「企業チームが日本のトップレベルをささえ、また大学が単独で主流を成していることを聞いているが、クラブを基盤にしたヨーロッパの形態になれた私には、日本のシステムはちょっと理解しにくい。皆さんからよく説明をうけたい。

少くともヨーロッパ的な市民クラブが弱体であることは、実に奇妙な印象である」

——どうもいろいろありがとうございました。ますます世界のハンドボール発展のために御尽力下さい

会長「わずかな滞日期間にもかかわらず、日本協会首脳が訪ねてくださったことを感謝いたします」

（文責・久田　暁）

（注）日本協会は、ヒュークベルグＩＨＦ会長が東京で「モントリオール予選（男子）までに北朝鮮（朝鮮人民民主主義共和国）が正式加盟国となるかもしれない」と云うニュアンスの発言をしたことや、中国ハンドボール界の復活（本誌6頁参照）の報に接したことなどで、近い将来国際関係に新たな局面を迎えるものとみて、8月24日の月例常務理事会で執行部内に「国際交流事業委員会」（仮称）を特設することを申し合せた。

全国中学生大会

東陽（大阪男子）と小川ク（熊本女子）が優勝

第3回全国中学生大会は8月18、19の両日奈良市中央体育館を主会場に、全国9ブロックの予選を勝ち抜いた代表と開催地代表（奈良）の男女各10チームが参加して行われた（女子は北海道不参加）。

この大会も3年目とあって技術的にはすっかり安定、好内容の試合が多かった。

男子は3連勝を狙う愛知代表が1回戦で敗れ、近畿同士の決勝から東陽（大阪）が、地元・生駒（奈良）を接戦の末に降し初優勝した。

女子は、過去2連勝の福島南（近畿、大阪）が今年は選抜チームで出場、その試合ぶりが焦点となったが、ダークホースの二瀬（東北、福島）に敗れた。

決勝は、小川ク（九州、熊本）×二瀬の顔合せとなったが、小川クが圧倒的なチーム力で初優勝を飾った。

来年の第4回大会は、石川県小松市で開かれる予定。

◇男子1回戦（2試合）

左近山（関東・神奈川）7（3―2、4―2）4 高浜（北信越・福井）

東陽（近畿・大阪）12（5―3、7―5）8 桜明ク（東海・愛知）

◇同準々決勝

岐陽（中国・山口）16（8―3、8―8）11 釧路北（北海道）

戸町（九州・長崎）11（6―1、5―2）3 香川（四国・香川）

生駒（奈良）13（6―4、7―8）12 左近山

東陽 23（10―3、13―8）11 黒石野（東北・岩手）

▽同準決勝

生駒 16（8―3、8―8）11 岐陽

東陽 14（7―5、7―5）10 生駒

▽決勝

東陽 14（7―5、7―5）10 生駒

（両校メンバー）▼東陽中・▽GK川上、坂本▽FP森下、川瑞、山本泰、水野、今口、硲、山本武、西田、沖永、金子

▼生駒中・▽GK奥田、丸山▽FP生野、小山、中棹、春見、杉山、森下、田中、土肥、稲葉、斉藤。

◇女子1回戦（2試合）

玉造（関東・茨城）7（3―3、4―3）6 生駒（奈良）

大阪市選抜（近畿・大阪）5（2―2、2―2、1―1、0―0）5 岩国（中国・山口）

引き分け、抽せんで大阪市選抜の勝ち

▽同準々決勝

玉造 8（3―5、5―1）6 加納（東海・岐阜）

小川ク（九州・熊本）18（9―3、9―2）5 明倫（北信越・福井）

二瀬（東北・福島）9（7―2、2―5）7 大阪市選抜

香東（四国・香川）6（2―2、4―3）5 兵庫選抜（近畿・兵庫）

▽同準決勝

小川ク 12（7―3、5―5）8 玉造

二瀬 10（6―3、4―2）5 香東

▽同決勝

小川ク 18（10―2、8―4）6 二瀬

（両校メンバー）▼小川ク・▽GK井村、鋤崎朱▽鋤崎喜、中島、山口、塩田、山田、宮崎、江崎、奥村、岩本、岩村

▼二瀬中・▽GK佐藤三、吉成▽FP大河内、松岡、半谷三、落合富永、佐久間、塩田、佐藤ひ、半谷フ、松谷。

○……3年目を迎えたこの大会で早くも〃伝統〃校が生まれている　女子で3年連続出場をはたした二瀬（福島）、加納（岐阜）、香東（香川）らがそれ。

男子では香川（香川）、戸町（長崎）が去年、今年と連続をはたしているが、3年つづけてという記録はない。

○……これが都府県別になると男子では愛知、香川、大阪、女子では福島、茨城、岐阜、大阪、香川が3年つづけてブロック予選を勝ち抜いている。男子北海道はつづけて釧路市勢だ。

強い地区の出現は、それだけハンドボールが根ざしていることにもなるが、大きな発展のためにはしだいに〃地域差〃が解消されなければいけない。

○……選手のなかで唯一人3年連続出場の〃偉業〃をはたしたのは福島・郡山市立二瀬中の落合君枝さん。

2年前初参加の時も156cm、45Kと大きかったが、今夏はさらに伸びて161cm、50K。3試合で16点をたたき出し〃貫録〃を示した。

惜しくも決勝で敗れたが「高校へ進んでからもハンドボールをつづけたいと思っています」と元気いっぱい。

ある役員は「彼女の成長が、そのままこの大会の成長でもありますね」と嬉しそうだった。

【中学大会関連記事は次号にも掲載】

地元（福岡）同士、久留米工に栄冠輝やく

〜第25回全日本高校選手権〜

女子は大谷（大阪）が新居浜商（愛媛）降す

炎天下に"高校日本一"の栄光を求めて競う第25回全日本高校選手権は、8月1日開始式、翌2日から7日までの6日間、北九州市の桃園球技場を主会場（5〜7日は北九州市立総合体育館）にして華々しく行われた。

全国の激しい予選を勝ち抜いて集った男女各49校は、期待どおり若さにあふれた熱戦をくりひろげたが、例年になく前評判の高かった強豪が順調に勝ち進み、それだけに上位戦での激突はスケールの大きい好内容となった。

男子は、連勝を狙う名城大付（愛知）を準々決勝で破った久留米工（福岡）と、前年2位の小倉西（福岡）の地元同士による決勝となり、盛んな声援のとびかうなかで対戦、久留米工が初出場で初優勝という偉業を遂げた。

女子は、近畿1位の大谷（大阪）と四国1位の新居浜商（愛媛）が勝ち残り、1点を争う大接戦から延長にもつれこみ、大谷が延長後半貴重な決勝点をあげ、感激の初優勝を飾った。

男子で福岡代表の優勝は初九州に初めて栄冠をもたらした。女子で大阪代表の優勝は16年ぶり5度目のこと。

なお、久留米工の記録した「初出場・初優勝」は、第2回（昭26）の桜台（愛知、当時11人制）以来のこと。また、同県勢による優勝争いは男女を通じて7度目（男6、女1）である。

来年の第26回大会は山梨県塩山市で開かれる予定。

男子記録

桃山、氷見の反撃かわす
中大付は新居浜工押切る

▽1回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
都城泉丘（宮崎）	10	4－5	6－4	9	函館有斗（北海道）
中大付（東京）	16	7－3	9－4	7	新居浜工（愛媛）
御坊商工（和歌山）	9	4－2	5－3	5	修道（広島）
四日市工（三重）	7	3－3	3－3……1－1、0－0	7	舞鶴（千葉）

引き分け、抽せんで四日市工の勝ち

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
馬頭（栃木）	15	10－3	5－8	11	大垣農（岐阜）
鹿児島工（鹿児島）	14	7－4	7－8	12	八幡工（滋賀）
麻生（茨城）	17	7－7	10－4	11	大分東（大分）
慶応（神奈川）	21	8－9	13－6	15	倉敷天城（岡山）
桃山学院（大阪）	17	10－7	7－9	16	氷見（富山）
熊本市商（熊本）	15	7－4	8－6	10	小松工（石川）
岩国工（山口）	25	7－1	18－2	3	柏崎工（新潟）
嵯峨野（京都）	26	13－3	13－6	9	徳島東工（徳島）
塩山商（山梨）	17	6－2	11－2	4	報徳学園（兵庫）
名南工（愛知）	9	3－6	6－1	7	坂出工（香川）
大石田（山形）	10	6－4	4－5	9	知念（沖縄）
添上（奈良）	11	6－4	5－5	9	前橋商（群馬）
盛岡商（岩手）	21	11－2	10－5	7	倉吉工（鳥取）

湯沢、麻生に快勝
塩山商、鹿町工を制す

▽2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
名城大付（推愛知）	19	6－4	13－8	12	都城泉丘
中大付	26	14－0	12－6	6	佐賀農（佐賀）
久留米工（福岡）	14	9－0	5－7	7	御坊商工
仙台育英（宮城）	14	4－3	10－6	9	四日市工
上田（長野）	18	9－7	9－4	11	馬頭
鹿児島工	15	11－4	4－9	13	浜田水産（島根）
湯沢（秋田）	19	10－2	9－6	8	麻生
慶応	12	4－6	8－5	11	聖光学院工（福島）
桃山学院	20	11－6	9－8	14	幡多農（高知）
熊本市商	12	5－5	7－4	9	嵯峨野
大石田	10	6－2	4－6	8	菖蒲（埼玉）
塩山商	12	5－5	7－5	10	鹿町工（長崎）
名南工	24	12－5	12－8	13	福井商（福井）
岩国工	12	2－2	10－3	5	静岡農（静岡）
添上	18	7－7	11－4	11	弘前南（青森）
小倉西（福岡）	18	11－1	7－5	6	盛岡商

名城大付、連勝の夢消ゆ
久留米工、中大付を破る

▽3回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
仙台育英	14	7－8	7－4	12	名城大付
久留米工	20	8－7	12－5	12	中大付

上田 13（10−3、3−2）5 鹿児島工
湯沢 16（6−6、10−8）14 桃山学院
慶応 12（6−5、6−5）10 熊本市商
岩国工 14（7−4、7−5）9 大石田
小倉西 20（11−8、9−9）17 添上
名南工 9（2−2、7−5）7 塩山商

湯沢、上田に逆転勝ち

▽準々決勝

久留米工 26（15−7、11−8）15 仙台育英
湯沢 18（6−7、12−6）13 上田
岩国工 19（8−4、11−8）12 慶応
小倉西 15（7−2、8−4）6 名南工

粘る久留米、声援に応える

▽準決勝

久留米工 18（7−8、7−6：2−1、2−2）17 湯沢

【湯沢】GK・FP
藤坂部川田藤利山村関田田
加小阿新近佐由高岩古織武

【久工】GK・FP
島永司田野吉原島下柳方藤
原弥赤安長秋椿中山小緒武

17　18

岩国工、後半の猛反撃空し

小倉西 16（11−5、5−11）15 岩国工

【岩国】GK・FP
元本木田　岡好井逸木本山
泉　本　本
中家高原　善坂村坂植松藤

【小倉】GK・FP
岡崎藤村延川野尾下杉越柳
西岩佐迫松関神西森大中小

15　16

小倉西、2年連続の2位

▽決勝

久留米工 14（7−7、4−7）11 小倉西

得	【小倉】	
0	岡	西
0	崎	岩
2	藤	佐
3	村	迫
3	延	松
0	川	関
1	野	神
2	尾	西
0	下	森
0	杉	大
0	越	中
0	橋	高
11		

【久工】		得
島	原	0
永	弥	0
司	赤	0
田	安	0
野	長	2
吉	秋	4
原	椿	1
島	中	5
下	山	0
柳	小	0
方	緒	1
藤	武	1
		14

（GK：上2名、FP：以下）

○……県内大会など、これまで3度の対戦はいずれも久留米工の勝ち、それだけに序盤でリードした久留米工は余裕が生まれ、逆に小倉西は焦りをのぞかせた。

後半になって、小倉西は動きに鋭さが加わり、特に攻撃面で思い切ったプレーが見られたのだから前半もう少し、自信をもって臨んでいたら、と惜しまれる。

久留米工は、多彩な攻撃と、守っては、GK原島が判断のよいプレーでピンチを再三効ったのが光っていた。

女子記録

三本松、函館女商ら敗退

佐世保商、添上を降す

▽1回戦

高蔵（愛知）10（3−2、7−2）4 深谷女（埼玉）
熊本女商（熊本）11（6−1、5−3）4 彦根西（滋賀）
筑紫女学園（福岡）8（6−3、2−3）6 日川（山梨）
国分実業（鹿児島）22（11−2、11−1）3 金川（岡山）
小諸商（長野）10（6−4、4−3）7 三本松（香川）
明徳商（京都）5（3−2、2−1）3 武生商（福井）
県神戸商（兵庫）7（3−3、4−1）4 岐阜南（岐阜）
明倫（神奈川）18（10−2、8−9）11 浜田商（島根）
津女（三重）7（3−4、4−1）5 国学院栃木（栃木）
小禄（沖縄）10（4−2、6−3）5 城山（高知）
広島一女商（広島）17（7−0、10−4）4 北陸大谷（石川）
水海道二（茨城）13（3−1、10−5）6 神埼農（佐賀）
石川（福島）11（6−1、5−1）2 函館女商（北海道）
古賀（福岡）9（4−2、5−5）7 池田（徳島）
和洋女（秋田）13（9−1、4−4）5 粉河（和歌山）
清水商（静岡）6（3−2、3−1）3 小杉（富山）
佐世保商（長崎）14（6−4、8−1）5 添上（奈良）

明倫、大分東に善戦及ばず

国分実業も延長で惜敗

▽2回戦

新居浜商（愛媛）12（7−5、3−5：1−1、1−0）11 国分実業
小松市女（推石川）11（8−2、3−1）3 高蔵
熊本女商 17（8−1、9−0）1 米子南商（鳥取）
筑紫女学園 10（6−6、4−3）9 小林商（宮崎）
桐生女（群馬）4（3−1、1−1）2 明徳商
県神戸商 10（6−3、4−3）6 青森西（青森）
盛岡二（岩手）6（3−2、3−2）4 小諸商
大分東（大分）13（7−7、6−5）12 明倫
涌谷（宮城）10（5−0、5−2）2 小禄
大谷（大阪）9（3−0、6−4）4 水海道二
県立石川 9（4−1、5−0）1 巻（新潟）
広島一女商 14（7−2、7−5）7 津女
和洋女 16（9−0、7−2）2 竹田女（山形）
古賀 8（5−4、3−3）7 佐原女（千葉）
徳山（山口）13（4−6、9−3）9 佐世保商
清水商 11（7−4、4−3）7 小平（東京）

小松市女、熊女商に敗る

広島一女商、涌谷に大勝

▽3回戦

熊本女商 6（4−3 2−2）5 小松市女

筑紫女学園 7（4−3 3−2）5 盛岡二

新居浜商 14（4−1 10−5）6 桐生女

広島一女商 12（3−1 9−1）2 涌谷

大谷 13（7−1 6−2）3 県立石川

大分東 17（7−3 10−6）9 県神戸商

和洋女 11（6−4 5−5）9 古賀

徳山 8（4−2 4−4）6 清水商

和洋女、延長で徳山制す

広島一女商、大谷に及ばず

▽準々決勝

熊本女商 8（3−0 5−2）2 筑紫女学園

新居浜商 14（8−2 6−6）8 大分東

大谷 7（3−2 4−3）5 広島一女商

和洋女 13（4−5 5−4 … 1−0 3−0）9 徳山

熊本女商、あと一歩及ばず

▽準決勝

新居浜商 6（4−2 2−2）4 熊本女商

【熊本】
GK 丸山か、丸山あ
FP 磯崎、田島、栗原、畑田、宮崎、伊東、関本、池田、永松、五反
4

【新商】
GK 秦(ひ)、近藤
FP 杉下、宮川、河野、矢野、秦(裕)、加藤、宮本、福田、尾幡、青木
6

大谷、和洋女を押しまくる

大谷 13（5−2 8−0）2 和洋女

【和洋】
GK 高橋、金
FP 館岡、佐藤、向井、横山、菊地、寺田、鈴木、石井、古谷、小野
2

【大谷】
GK 中田、岡田
FP 渡辺、今井、松井、辰已、池渕、横山、浜野、真喜志、坪、中野
13

大谷、池渕10得点の活躍

▽決勝

大谷 11（5−5 4−6 … 0−0 1−0）10 新居浜商

【新商】	得
GK 秦(ひ)	0
FP 杉下	0
河野	0
矢野	0
加藤	1
秦(裕)	3
宮川	0
宮本	5
福田	1
尾幡	0
青木	0

【大谷】	得
GK 中田	0
FP 渡辺	0
今井	1
横山	0
池渕	10
松井	0
辰己	0
浜野	0
真喜志	0
中野	0

11（0）7MT（0）10

○……延長後半も残り50秒台となって、伯仲の両者はさらに延長を繰り返すかにみえたが、大谷はこの好ディフェンスからボールを得て速攻、大活躍の池渕（161cm）が貴重なシュートを決めて、劇的な初優勝をすたらした。

○……立ちあがりからまったく互角の形勢。新居浜が宮本、秦、福田らで多彩な攻撃をみせれば、大谷は池渕にボールを集めて対抗した。

勝負をかけた後半、新居浜は一度リードを奪ったが、大谷もすぐ反撃、15分10−9と逆転して終盤を支配、そのまま逃げこむのではと思えた。しかし、新居浜もよく粘り相手が反則退場で5人守備となったスキをついて残り28秒で宮本が同点シュート、延長へもつれこんだ。

大会評・鴫田新太郎審判長の話

記念大会にふさわしく地域差がなくなり1回戦から見応えがあった。全般的な印象としては、男子がやや力感に欠けたのに対し、女子はスケールが大きくなり内容的にも秀れていた。

また、1、2年生選手のレベルが近年になく高かったのは、中学生大会が盛んになったこととの影響ではなかろうか。

明後年は氷見

全国高体連ハンドボール部は昭和51年の第27回全日本高校選手権の開催地を富山県の氷見市運動公園とすることを確認した。

歴代優勝校

回	〔男子〕	〔女子〕
①昭25	足利（栃木）	操山（岡山）
②	桜台（愛知）	青陵（岡山）
③	桐生工（群馬）	寝屋川（大阪）
④	桜台	稲沢（愛知）
⑤	桜台	寝屋川
⑥	桜台	明善（福岡）
⑦	桜台	寝屋川
⑧	桜台	水海道二（茨城）
⑨	清水商（静岡）	寝屋川
⑩	中京商（愛知）	熊本市立（熊本）
⑩	中京商（愛知）	熊本市立
⑪	中京商	熊本市立
⑫	中京商	半田（愛知）
⑬	桜台	静岡城北（静岡）
⑭	桜台	静岡城北
⑮	明星（東京）	栃木女（栃木）
⑯	桜台	静岡城北
⑰	明星	秋田和洋女（秋田）
⑱	明星	花巻南（岩手）
⑲	下関中央工（山口）	菊池農（熊本）
⑳	下関中央工	新居浜商（愛媛）
㉑	新居浜工（愛媛）	水海道二
㉒	湯沢（秋田）	山陽女（広島）
㉓	中大付（東京）	深谷女（埼玉）
㉔	名城大付（愛知）	小松市女（石川）
㉕昭49	久留米工（福岡）	大谷（大阪）

インター・ハイ決勝に拾う

カメラ・山田真市

男子決勝・小倉西の後半の反撃は優勝を争うにふさわしいものがった

一人10点をたたき出し優勝の原動力となった大谷・池渕の豪快なショット

選手も必死ならベンチも…。味方の好機に思わず立ちあがる大谷早川コーチ。

2度目の優勝を狙って新居浜商の攻撃も元気いっぱいだったが—

高体連25周年を迎う

〜最近5年間の歩みをたどる〜

全国高体連ハンドボール部が、盛大に創立25周年を祝った。

本誌では、20周年を迎えた昭和44年、その球史を5回にわたって連載したが、この期をとらえて、続編ともいうべき「最年5年間」の歩みを書きとどめてみた。

新部長いだきスタート

高体連が20周年の祝典をあげたのは、昭和44年群馬県富岡での第20回インター・ハイ（全日本高校選手権）の時である。

あっという間の5年間、この間に男子は173校増の853校、女子は143校増の577校、現有勢力一、四三〇校という大世帯にのしあがっている（注、数字は「高体連25周年記念誌」による）

文字どおり日本ハンドボール界を支える若い力である。

改めて、関係各位の努力、情熱に敬意を表したい。

〝20周年〟を終えたまず最初の年、つまり45年度は、いかにも新しい第一歩にふさわしく、新部長推たいでその幕をあけた。

昭和39年から6年間にわたり部長の任にあった児玉九十氏が退任され、第4代部長に徳永陸繁氏を新任したのである。

徳永氏は、文字どおり、高校ハンドボール（厳密にいうならその前身、旧制中学ハンドボール時代から）とともに歩んで来たかただ

編集子は45年1月31日、東京・体協で開かれた全国高体連全国委員会を取材のため、傍聴していたが、それまでは、部長と言えば「外部のよき理解者」を推せんするのがたてまえとなっていたものをこの日は「20の年輪を刻んだのだ。なんとか自分たちの先輩から―」という熱っぽいムードが会議場を押しつつんでいたのを覚えているその結果、徳永氏が選ばれたのであった。

高校界の成長と、新しいスタートにふさわしい象徴的なできごとといえよう。

その〝最初の年〟45年のインターハイ（第21回）は彦根市のローンコートで行われた。

男子で新居浜工、女子で新居浜商と愛媛勢の好調が目立ち、新居浜工はみごと初優勝を飾ったが、新居浜商は惜しくも準決勝で水海道二（茨城）に退けられ、その水海道二が、決勝で島原農（長崎）を激戦の末降して12年ぶり2度目のタイトル獲得となった。

松山市で開かれた46年のインターハイは、大会前から前年にみせた地元校の活躍で、いちだんと盛りあがっていた。特に男子が佐賀代表の登場で都道府県フルエントリーの宿願を果たしたのは、記憶にとどめられよう。内容的には地域差解消の前評判を裏付けるように男子は湯沢（秋田）、女子は山陽女（広島）が初優勝。男子で東北秋田代表の、女子で中国、広島代表の制覇は史上初という画期的なものであった。

中学大会の発足を歓迎

オリンピックの年、昭和47年は高校界にとっても、大きな刺激をうけた1年である。

敏感な高校生には、オリンピック種目である、ないは、スポーツ選択の面に於いても、少からず影響があり、それだけに、颯爽とミュンヘンへ向かった12名の代表選手の勇姿を見て、ハンドボールに親しもうとする高校生が激増したのである。

もう一つ、この年から「全国中学生大会」が始められたのも、大きなトピックであった。

それまでは、文部次官通達によって中学生によるスポーツの全国大会参加は、水泳、フイギュアスケートなど、ごく限られた競技だけであったのだが、通達緩和となるや各スポーツは競いあうように全国大会の実施に踏み切った。

しかし、ハンドボール界は、日本協会の慎重策などあって、45、46年度は、開催を見合せ、ブロック大会の促進を企ったにとどまった。

この年になって、世論は、執行部を動かすまでの大きな力となり盛夏8月、名古屋市郊外の愛知県青少年公園球技場で、待望の開幕にこぎつけた。

高校界にとっても、これまでは高校に進学してからハンドボールを始める生徒が圧倒的に多く、わずか3年間では、基礎以外の技術戦術を指導するとなると、どうしてもハードなスケジュールを組まさるを得なく、それがための障害も散見された。中学ハンドボール界が、将来確立されれば、そうした問題がいくらかでもゆるやかになるものと期待され、「弟分」ともいうべき、全国中学生大会のスタートは、高校関係者にも拍手をもって迎えられた。

「ミュンヘン参加」で盛上る

さて、第23回インター・ハイは山形県東根市に男女とも55校という史上最高のエントリーで行われた。

大会第1日に、ミュンヘンオリンピック代表選手の壮行式が組みこまれ、いやがうえにもムードは盛り上った。競技内容も男女とも例年に優る激戦となったが、男子は中大附属（東京）が、女子は深谷女（埼玉）が初の栄冠を手にした。

中大附属は、第16回大会（昭40）に初出場以来、つねに優勝を狙うグループに名指しされながら、勝運に恵れなかったが、ついに宿願を果した。

一方、深谷女は、その出場回数においては、屈指の伝統校であったが、大会前の予想では必しも最上位進出が確実視されていたわけではなかった。

それだけに、「各試合とも少差ではあるが、相手を巧みに振り切って勝ちあがり」感激の初優勝となった。（嶋田審判長・評＝本誌101号）

インター・ハイの優勝戦、特に女子は、いつも〝感動〟をともなうものだが、深谷女の優勝は、とりわけ印象深いものであった。

男子フルエントリー成る

48年の高校界は、特筆すべき年であった。

鳥取女子の参加でインター・ハイに、47都道府県の男女が初めて勢揃いしたのである。

実に24年の才月、関係者は「こ

の日」を夢見て努力をつづけて来た、といっても言い過ぎではないだろう。

すでに、男子は前述のように2年前の22回大会（昭46）に、フルエントリーの宿願を遂げており、女子の到達も時間の問題であったとは云え、喜びは一しおであった。

第24回大会は、この年から全国高体連の適正化の線に沿って「1県1代表」に規制され、文字どおり、郷土の期待を背にしての〃対抗戦〃となった。

三重県四日市市に集った男女各49校の代表のうち、栄冠を握ったのは、男子は名城大付属(愛知)、女子は小松市立女(石川)。いずれも初優勝の快挙であった。

名城大付が、左腕3人を揃えるユニークな布陣で勝ち進めば、小松市女は、豊富な練習量とチームワークによって〃日本一〃の座についたものである。

押され気味の日韓交流

こうして、この5年間も順調に、いや、これまで以上の飛躍を示しながら、記念の年へと入っていくわけだが、ここで、インター・ハイ以外の動きに目を向けてみたい。

まず、国際定期戦ともいうべき日韓交流は、昭和37年8月全日本高校選抜（菅是敬団長ら20名）の訪韓を第1回に、翌38年、韓国高校選抜が来日して第2回を開いたが、そのあと4年間の空白を経て43年待望の復活をした。

これは、日本体協の日韓高校スポーツ交流の中に含まれてのもので、他のスポーツとともに、交互に遠征を繰り返した。最近4年間の記録をたどってみると

▽45年　新居浜工業（愛媛）が遠征して2敗

▽46年　東亜高が来日、日本側は2敗

▽47年　中大附属（東京）が遠征して1勝1敗

▽48年　高麗高が来日、日本側は2敗、という成績で、48年からは女子も併設され、慶熙女高が来日1勝1敗だった。

そして、今夏も日本側（男・久留米工、女・大谷）が遠征して、和やかな交歓を行うハズだったのだが、別頁所報のとおり、朴大統領夫人が凶弾に倒れる不幸に哀悼の意を表して休会となったのは、ご承知のとおりである。

戦績でみる限り、日本勢はこのところ押され気味だ。この傾向が学生ーナショナルへと、そのレベルが高まっていくのではないかと不安を抱く関係者も少くない。

なお、この4年間の交流(男子)で、韓国からは車聖福、金成憲、(ともに東亜高、現成均館大3年)日本からは蒲生晴明（中大附、現中大2年）という「アジアのスター」が輩出したことを特筆しておきたい。

沖縄で女子大会(特別国体)

高校界のもう一つのビッグエベント国民体育大会（高校男女）は、いわゆる県別ピックアップシステムが地につき、インター・ハイとはまた別の興味を抱かせている。

45年（岩手国体）は選抜軍を送りこんだ大阪が完勝する偉業。男子は21年ぶり、女子は16年ぶりという栄光であった。

46年（和歌山国体）は、長身選手を揃え豪快な攻撃を誇る男子・湯沢（秋田）の二冠に期待をもたれたが岩国工（山口）に敗れて成らず、岩国工が余勢をかって優勝女子は和洋女（秋田）の勝利に終った。

47年（鹿児島国体）は、予選で有力県がバタバタと倒れ、そのムードが本大会にも持ちこまれたが結局、男子は福岡選抜が、女子は熊本選抜がそれぞれ首位となった。

48年は、5月に沖縄で〃本土復帰記念特別国体〃が開かれ、ハンドボールは、高校女子（8チームのトーナメント）で参加した。

このような催しは高校界にとっても初めてで、インター・ハイの前哨戦といった意気ごみで参加するチームもあり、なかなかの熱戦だったが、熊本女商が、決勝で大分東に逆転勝ち、優勝を飾った。

昭和40年、徳山高(男、山口)、熊本市立（女）の両チームが遠征して、普及の種まきをした沖縄球界は、復帰前からの関係者の努力で、飛躍的な発展をとげ、この特別国体も、新装のコザ市営体育館で、〃本土〃の大会に優るとも劣らぬ運営で、みごとに成功の実をあげた。

ちなみに、沖縄からインター・ハイに代表がはじめて送られたのは40年（第16回大会）の興南(男)翌41年からは女子も参加している。

さて、48年秋の国体は千葉で行われ、男子は東京選抜、女子はインター・ハイの勝者小松市女（石川）が、抜群の力を示して二冠を得るところとなった。

インター・ハイ、国体の二冠独占は史上8校目の快挙である。

なお、今年の国体は10月21日から茨城県水海道市で開かれるが、来年度からは内容改正のため高校の部がなくなる。高校にとって最後の大会である。

ところで、高校界と日本のトップレベル、第一線層は、今や切っても切れない間柄になっているが日本協会も、高校界を、はっきりと〃次代への温床〃として意識、その施策の上に、いくつかを反映させている。

特に、46年度から全日本総合選手権に、男女とも「全国高体連代表」の枠を一つづつ設けていることや、47年度からスタートした「ヤング（ジュニア）全日本」制度へ、積極的に高校生をリストアップさせているのは注目してよい。

国際的にもユースの世界選手権開催が本決りとなるなど、今後の高校界はいっそうクローズアップされるだろう。

新しい胎動を期待

さて、全国高体連ハンドボール部に代表される高校ハンドボール界は、四分の一世紀の球史を刻んで、これからは、新しい発展期である。

ハンドボールの知名度高揚は、高校界の前途を、いちだんと明かるいものにしてはいるが、周囲にある問題の大きさ、深刻さも、これまでの25年間とは比べものにならぬようだ。

現代の若者、現代の高校生の考え方、歩もうとする姿勢をじっくりと見究めた指導が、今ほど望まれている時期はないように思う。

ひたすらインター・ハイの成功と繁栄を、イコール高校界の成功と繁栄に結びつけて来た過去の歴史から、どう新しいステップを踏み出すか。

25年経った高校ハンドボール界は、新しい胎動がそろそろ始ってよいとも思われるのである——。

（文責・編集部）

高体連、創立25周年を祝う

全国高体連ハンドボール部は8月1日午後6時から北九州市の千草ホテルで「創立25周年記念式典」を行った。

同部は昭和24年、高体連（全国高等学校体育連盟）発足にさきがけて発足され25年高体連設立とともにそのオリジナルメンバーとなった。

この日の式典には、全国高体連関係者、日本協会関係者ら来賓をはじめ、高体連ハンドボール部役員、同地方関係者など100名近い人たちが参集、盛会だった。

特に、地方関係者は、若い顔ぶれが目立ち、新しい時代への船出にふさわしいものを感じさせた。

なお、25周年を記念して恒例の「記念誌」（通巻第4号B5判、130頁）を刊行したほか、功労者の表彰を行った。

全国高体連ハンドボール部は、25周年にともなう表彰で本誌前号既報後、さらに次の5校を追加した。

（表彰校）

福島、和歌山商、兵庫工＝以上男子、四日市（三重）、大垣南（岐阜）＝以上女子

初代議長に安藤氏選任

3部合同会議

第3回3部（技術・審判・普及）合同会議は、8月9日東京で開かれ、主に技術部から報告された対東ドイツ戦全日本男子メンバーや今後の女子頂点強化計画などについて話し合いを行った。

また、初代議長（専門部長にあたるポスト）として審判部から選出の安藤純光氏（日本協会常務理事、審判部長）を決めた。

◇

3部合同会議の活動がどうやら軌道にのりはじめそうだ。

会議のメンバーは、いぜんその性格に暗中模索とも云われるが、会議を繰り返していくうちに、性格づけするのでも構わないと思う。

当初の構想では、かつてのIHF（国際ハンドボール連盟）のTC（テクニカル・コミティ、技術委員会）のようなものを狙ったのだが、技術部の頂点強化対策事業に屋上屋を重ねる結果を危惧して単に3部の連絡機関的な色彩を強めることになっていた。

しかし、執行部内に競技分野、運営分野の“分立”を狙う傾向が強まり、改めて、3部合同会議がクローズアップされはじめたものである。

規約に裏付けられた機関ではなく、専門委員会の合同会議にすぎないが、IHFでもCEO（競技組織部門）、CRR（審判規則部門）CTM（トレーナー、研究部門）の合同・連けいはつねに行われており場合によってはCPD（広報普及部門）とのタイアップもある。

日本協会の場合も安藤初代議長を中心に、時には審判の、時には普及の、時には頂点強化の課題をそれぞれの立ち場で、じっくり話し合うのも、決してムダなことではあるまい。

8月24日の月例常務理事会では「ミニ・ハンドボール」の開発を同会議の手によって進めるよう要望する声があった。（Z）

明後年から規模拡大 全国中学生

日本協会中学部は、今夏奈良で行われた第3回全国中学生大会時の会合で、今後の同大会の運営について検討、課題となっている参加校数を明後年の第5回大会（開催地未定）から男女とも16校に拡大（現行は男女各10校）して開くよう研究と準備を進めることに決めた。

来年の第4回大会（石川県小松市）は、これまでどおり、各ブロック代表と開催地代表各1で開かれる。

NHKテレビスポーツ教室

NHK教育テレビによる「テレビスポーツ教室・ハンドボール」が今年は10月6、13日の2回放映される。

指導は前全日本男子監督・北川喜氏の予定。

放送時間は、両日とも午前9時30分から10時30分まで。なお10月12、19の両日午後6時から再放送も行われる。

全日本男子、国体出場に特例

日本協会は、東ドイツ戦（8月31日〜9月8日）に備えて、別掲のような全日本（男子）を編成したが、一部地域の国体予選と、全日本の練習日、試合日が重なりあうことが予想されるため、全日本18名のうち、国体出場資格のある12名について、「地域予選に出場しなくても、所属チームが、国体出場権を得た場合、本大会への参加を認める」との特例を決め、発表した。

10月にIHF総会

第15回IHF（国際ハンドボール連盟）総会は10月4、5日の両日イタリアで開かれるが、IHFはこのほど、その議案（各国提案）を公表した。

それによると、今回、各国の提案は4項目43件に及び、このなかには日本、アメリカ、台湾から「モントリオールオリンピックの女子出場国に大陸代表を含まんる」との提案も含まれている。

日本協会の出席者は、渡辺和美副会長（IHF理事）のほか1名の予定。

鹿児島協会変わる 鹿児島県協会は、このほど事務局を変更した。

新所在地・鹿児島県曽於郡大隅町岩川五、六七七 曽於福祉事務所福祉課、堀之口員男氏気付

荒川理事長が帰国 訪独日本スポーツ少年団の団長として西ドイツ各地を約一ケ月にわたり訪れていた日本協会・荒川清美理事長（日本体協理事）は8月14日午前6時羽田着のルフトハンザ特別機で無事帰国した。

栗本義彦顧問亡くなる

日本協会顧問・栗本義彦氏（前日本体大学長）は脳血せんのため8月23日東京の自宅で亡くなられた。77才。

栗本顧問は昭和25年3月から47年3月まで22年間にわたり日体大学長をつとめ、ハンドボールが同学の代表的なスポーツであったことから多くの優秀指導者、優秀選手輩出に助力された。日本ハンドボール界の大半の指導者は氏の“教へ子”と言ってよい。

大阪イーグルス，茨城教員破り４連勝

第17回全日本教職員選手権は８月10日から13日までの４日間，三重県・四日市高校特設グランドを主会場にして行われた。

31チームが参加した男子（トーナメント）は予想どおり前年のビッグフォアが今年も劣えぬ力を示し上位へ進出，結局大阪イーグルス×茨城教員の争いから大阪イーグルスが勝ち４連勝，通算10度目（大阪教員ク時代を含む）の優勝を飾った。

女子（オープン）は３チームのリーグ戦で行われ大阪教員が２連勝。

女子も大阪　全日本教職員選手権大会

男子

埼玉、福岡に逆転勝ち
愛知、接戦で福井降す

▽１回戦

- 静岡県教員団 28（13－8，15－8）16 群馬教員
- コンドルズ（茨城） 28（11－4，17－4）8 兵庫愛球会
- 東京教員 12（5－6，7－5）11 愛教ク（愛知）
- 大阪教員クB 14（10－5，4－6）11 宮崎教員
- 三重教員団 12（5－4，7－3）7 和歌山教員OB
- 埼玉フェニックス 15（6－7，9－6）13 福岡教員
- 愛知教員 16（7－6，9－6）12 福井教員
- 茨城教員 27（13－3，14－3）6 長野教員ク
- 大阪教員ク 21（9－4，12－6）10 岡山教員
- 和歌山教員ク 31（11－8，20－1）9 青森教員ク
- 千葉教員 16（4－3，12－3）6 ATFク（愛知）
- 栃木教員 26（11－6，15－9）15 富山教員
- オールドイーグルス（大阪） 25（9－5，16－7）12 広島県教職員
- 岐阜教員 20（11－9，9－8）17 高知県教職員
- スワロー兵庫 25（15－7，10－10）17 神奈川教員団

○……二転三転の好試合だったのは埼玉×福岡。前半なかばまでは埼玉が田村の２得点などでリードを奪い押し気味だったが、15分をすぎてから福岡の速攻が決まりだし21分６－６のあと25分大津のゴールで逆転した。後半も、福岡がペースを握って進めたが、埼玉は13分９－12から連続４ゴールして逆転、20分13－13とされたものの21分北井、23分中島で福岡を振り切った。

愛知×福井も大接戦。前半６たび同点のあと愛知は深津の活躍で優位に立ち、後半11分には11－８と開いたのだが、福井も粘り大塚、覊野、東川で15分に追いついた。しかし、愛知はすぐに３点連取したのがよく、福井はここで力つきた。

○……岐阜×高知は、派手な得点争いだったが、ロング、ポストを巧く使い分けた岐阜の勝ち。地元三重はベテランを揃えた和歌山OBのペースに乗せられ、後半３分には５－６といちどはリードを許す拙戦だったが、10分をすぎてから走力の差を表して最後は順当なスコアをあげた。

このほか、千葉に食いさがったATF(愛知)、前半の大差にめげず追いあげを見せた神奈川や宮崎の健斗が、例年になく１回戦を引き締めるものにした。

大阪教員ク、茨城に善戦
健斗するオールドイーグルス

▽２回戦

- 大阪イーグルス 15（8－4，7－3）7 静岡県教員団
- 東京教員 19（8－3，11－11）14 コンドルズ
- 三重教員団 16（8－5，8－4）9 大阪教員クB
- 愛知教員 15（9－4，6－6）10 埼玉フェニックス
- 茨城教員 13（4－5，9－3）8 大阪教員ク
- 千葉教員 19（7－2，12－9）11 和歌山教員ク
- オールドイーグルス 14（5－7，9－3）10 栃木教員
- スワロー兵庫 24（12－1，12－8）9 岐阜教員

○……茨城が大阪（教員ク）に苦しんだ。茨城は立ちあがり５分までに３点をあげる好スタートだったが、その後はまったく動きが鈍く大阪にじわじわと攻めつけられ20分４－４から25分以下、後半３分中村のシュートを浴びて４－６と逆転された。

しかし、後半10分を過ぎるあたりから練習量の差がのぞきはじめ茨城は10分６－６から塚田、松金池田、大川らで加点、勝ちをにぎった。大阪の善戦を賞していい。

東京×コンドルズも面白かった東京は前半15分から後半５分までに７ゴールを連続してあげ10－３と勝負を決めたかにみえたが、コンドルズも粘り大西、中山を中心にして反撃，15分には11－13と迫った。追はれながらも東京には余裕があり逃げこんだが、コンドルズの波にのった攻撃が、前半に示されていれば、さらにもつれただろう。

○……オールドイーグルスが栃木に逆転勝ちしたのはみごと。49才の村田(元全日本男子監督)をはじめ光島、島崎の両GK、望月、井上、東、北岡ら往年の〃顔〃が並ぶ。前半20分５－４から３点を奪われて５－７とされた時はそこまでとみえたが、後半開始と同時に反撃、特に15分からの５分間は、発らつとした動きで５点を連取、13－９とはなして勝利を握った。

全員のもつヨミの深さ、ペース配分、勝負どころのたたみかけに〃筋金入り〃を感じさせる。

○……ダークホース同士で注目された愛知×埼玉は、若さとチームプレーで相手をしのいだ愛知の快勝に終った。

埼玉も個人技を柱に追いあげようとするのだが、連続得点するだけの切れ味がなく、わずかに後半８分４－12から４ゴールして盛りあげただけだった。

歴代優勝チーム

回	チーム
①昭33	茨城教員ク
②	東京教員団
③	神戸ストーク
⑤	大阪教員ク
⑥～⑩	大阪イーグルス（５連勝）
⑪	埼玉教員ク
⑫	東京教員
⑬	埼玉教員ク
⑭～⑰	大阪イーグルス（４連勝）

愛知、三重にせり勝つ
イーグルス、東京を制す

▽準々決勝

大阪イーグルス 24（10—8、14—9）17 東京教員

○……大阪は速攻、東京は遅攻の展開で進んだが、大阪が固い守りから一気に反撃してチャンスを活かしたのに対し、東京はもう一つ鋭さがなく、大阪が先行した。

前半23分5—10とリードされた東京はそのあと平岡、浅野、土屋が得点、2点差に追いあげて興味を後半へつないだのだが、大阪は後半開始とともに3ゴール、さらに攻撃の手をゆるめず10分には18—10と開いて大勢を決めた。東京は平岡に頼りすぎたことと、走力で相手に劣った。（梅田幹夫）

愛知教員 9（5—4、4—3）7 三重教員

○……10分まで互いに無得点、そのあと三重が2点先行したが、愛知も追いついて一進一退。愛知は前半24分5—3とリードを奪い波にのるかと思えたが、三重は秋山のゴールなどで後半6分6—5と逆転した。

再び一進一退となったが、ともに決め手がなく、とりわけ三重は後半9分以降ついに無得点という凡攻、このスキに愛知は20分と24分飼沼がゴールして、結局この2点が試合を決めた。

三重は再三の勝機を落し自滅したのは悔やまれよう。（小林清通）

茨城教員 17（7—3、10—7）10 千葉教員

○……関東同士、相手を知りつくした両チームだけに前半なかばまで動きの少ないさぐり合いがつづいた。20分1—5とリードされた千葉が7MTと佐藤で2点差としもつれるかにみえたが、茨城は直後に池田、塚田で優位を保った。

余裕のある茨城は後半3分から思い切りのよい速攻で1分おきに加点、10分12—4と大差がついた。

千葉も氷海を軸によくボールは廻っていたのだが、これといった決め手を欠き敗れた。（金子永治）

スワロー兵庫 16（7—4、9—8）12 オールドイーグルス

○……兵庫・井上、オールド・青木の射ちあいで始ったが、やはり3戦目ともなればオールドイーグルスの動きは鈍さがのぞき、兵庫はじっくり攻めこんで、前半3点差をつけた。

後半いきなりオールドイーグルスはスパート、2分6—7と追いあげて、あるいはと思わせたが、兵庫はあわてることなく12分9—8と僅差を守ったあと、一気に黒田、松岡、中村がパス・エンド・ランで得点、13—8主導権を握った。

オールドイーグルスは、終盤東が連続3ゴールするなど、最後まで試合を捨てず、その気力は大いに賞されるべきだろう（村井輝邦）

イーグルス、前半で決める

▽準決勝

大阪イーグルス 27（16—6、11—6）12 愛知教員

【愛知】	得
GK 竹田	0
GK 梶田	0
FP 斉藤	1
FP 松浦	1
FP 長縄	3
FP 飼沼	1
FP 細川	0
FP 松本	0
FP 山田	0
FP 堀田	1
FP 深津	5

得	【大阪】
0	本田 GK
0	広川 GK
4	早川 FP
3	高橋 FP
7	池本 FP
1	安達 FP
4	市田 FP
3	福井稔 FP
2	足羽 FP
0	福井孝 FP
2	河原崎 FP
1	樫塚 FP

（審・日野、宍戸）

27（1）7MT（1）12

○……前半10分まではまずまずのせりあいとなったが、その後は大阪がよく走り、愛知ディフェンスを突き破っては加点、20分11—5と差がついた。

愛知はどこか精彩がなく、特に守りが立ちなおれぬままに傷口をひろげてしまい、後半10分には19—8と挽回不能になった。

大阪はまったく楽なペースで試合を運んだ。（金沢淑郎）

スワロー、1点差守れず

茨城教員 18（10—8、8—8）16 スワロー兵庫

【兵庫】	得
GK 上野	0
GK 松野	0
FP 北山	0
FP 井上	0
FP 畑	2
FP 森本	0
FP 黒田	0
FP 松岡	11
FP 中村	2
FP 藤田	1
FP 阪本	0
FP 木嶋	0

得	【茨城】
0	大村 GK
0	谷萩 GK
5	池田 FP
0	立原 FP
5	中村 FP
5	塚田 FP
0	高野 FP
1	大川 FP
0	福永 FP
2	松金 FP
0	細谷 FP
0	住尾 FP

（審・岡本、辻）

18（1）7MT（2）16

○……ハンドボールの面白さを存分に味わせてくれる好試合だった。

立ちあがりから両チームともスピードプレーをぶつけあい、チャンスを逃さず得点、5分1—1、10分3—3、15分5—5と予断を許さなかった。

その後も2点差とは開かず、ようやく26分8—8から茨城が27分塚田、28分松金で10—8と初めて一息ついた。

兵庫も後半1分藤田のゴールで盛り返したのだが、茨城はすぐ2点を加え、さらに10分13—11から2点をつみあげて15—11としペースをつかんだかにみえた。

ところが、このあと14分間無得点という貧攻がたたって、兵庫の反撃を許した。

兵庫は13分中村ゴールのあと松岡がすばらしい当りで7MTを含む連続4点を奪い一気に逆転した。

茨城は、残り5分となって奮起26分池田で14—14とし23分7MT（塚田）で再逆転、終了20秒前塚田がダメを押して辛くも勝ち星をあげた。兵庫は終盤せっかくのリードをもちこたえられなかったのが惜しい。（大橋昭重）

スワロー3位、4位は愛知

▽3位決定戦

スワロー兵庫 25（11—10、14—7）17 愛知教員

○……後半5分までは1点を争う

白熱戦だったが、そのあと兵庫は松岡、藤田のゴールで豪快に愛知を突きはなした。
愛知は速いパスと動き、さらにはサイド攻撃などで兵庫を上廻るものがありながらペースをつかめず、後半はディフェンスの僅かなスキを兵庫の大たんな攻撃に割られてしまった。兵庫では前日まで33得点の松岡が、この試合もよく射って10得点する活躍をみせた。

（都梅芳治）

茨城、再度のリード空し

▽決勝

大阪イーグルス 20（5—6、15—7）13 茨城教員

得	【大阪】		【茨城】	得
0	広川	GK	大村	0
0	本田	GK	谷茨	0
3	高橋	FP	池田	5
5	池本	FP	松金	2
4	安達	FP	立原	0
3	早川	FP	中村	3
0	足羽	FP	塚田	2
3	福井稔	FP	高野	1
2	河原崎	FP	大川	0
0	市田	FP	福永	0
0	樫塚	FP	細谷	0
0	福井孝	FP	住尾	0
20（0）		7MT		（0）13

（審・鈴木、大橋）

○……茨城は巧くすべり出し10分4—2とリードを奪った。
大阪は15分すぎから鋭い切りこみで茨城守備陣を崩して得点を返し、25分5—5にもちこんだ。
茨城は29分40秒松永と後半2分池田のゴールで7—5、そのあと2点を返されたが、すぐ8—7と先行するなど順調に試合を進めた
しかし、地力に優る大阪はゆっくりと反撃の機会を狙い9分8—8のタイから相手ミスなどをついて10分河原崎、12分高橋、15分福井(稔)、16分池本と矢次早やにたたみかけ12—8とこの試合初の優位に立った。
茨城も池田の連続ゴールで反撃の望みを残したが、いったん主導権を握った大阪は、さすがに強く20分以降再び連続得点に成功。最後まで攻撃の手をゆるめず終盤は一方的に押しまくった。
力量的にはほとんど差はなかったが、ちょっとしたミスで流れのかわる典型的な試合だった。

（丸岡一清）

本田らを表彰 全日本教職員連盟は大会終了後、ベストセブンを次のように決め表彰した。
▽GK 本田洋（大阪イーグルス）
▽FP 池本進、安達修三、早川清孝（以上大阪イーグルス）池田信夫、中村博之（以上茨城教員）松岡猛（スワロー兵庫）

女子

大阪、東京・愛知降し連勝

▽リーグ戦

大阪教員 12（6—1、6—4）5 愛知教員

東京教員 14（7—4、7—4）8 愛知教員

大阪教員 12（3—4、9—6）10 東京教員

得	【大阪】		【愛知】	得
0	榎本	GK	中村	0
2	北村	FP	西岡	0
3	津熊	FP	宮田	0
3	中村	FP	近藤涼	1
4	福田	FP	林	0
0	太田	FP	佐竹	1
0	堂本	FP	酒井	0
0	繁田	FP	松木	0
0	桑原	FP	浜下	1
		FP	近藤恵	0
		FP	中島	2
12（0）		7MT		（0）5

（審・都梅、村井）

得	【東京】		【愛知】	得
0	益子	GK	中村	0
2	河村	FP	西岡	0
8	岡田	FP	大崎	4
1	荒井	FP	宮田	2
0	上原	FP	近藤涼	1
1	槙尾	FP	林	0
2	畑中	FP	佐竹	0
0	橋本	FP	酒井	0
		FP	松本	0
		FP	近藤恵	0
		FP	中島	1
14（3）		7MT		（3）8

（審・小林、吉田）

得	【大阪】		【東京】	得
0	榎本	GK	益子	0
		GK	松井	0
2	北村	FP	河村	1
1	津熊	FP	岡田	3
4	中村	FP	荒井	0
4	福田	FP	上原	0
0	太田	FP	槙尾	0
1	堂本	FP	畑中	3
0	繁田	FP	橋本	0
0	桑原	FP	坂倉	3
12（1）		7MT		（1）10

（審・岡本、辻）

○……予想どおり大阪、東京が互角の力を示し〝優勝〟を争った。
畑中、岡田と東教大の若手OGを加えた東京は終始押し切味で、後半17分10—7とリード、その勝利は動かないと思えた。
しかし、大阪はベテラン北村の好リードで驚くべき粘りをみせ22分福田で10—10、23分中村で逆転30秒後7MTで津熊がダメを押すという会心の試合運びで、東京をぼうぜんとさせた。

参加チームは、岩手の棄権からわずか3チームにすぎなかったが、この一戦で、女子教員界の評価はかなりつりあげられた感じだ。
いっそうの発展を期待したい。

【順位】①大阪教員2勝②東京教員1勝1敗③愛知教員2敗

年令別の採用を検討 全日本教職員連盟は、この大会期間中に開いた理事会で、近い将来、年令別（男子）の採用を検討することになった。
実現すれば、日本ハンドボール界では、初めてのシステムであり成果に注目が集ろう。

16校で〝熱戦〟 初の全国高専大会

注目の第1回全国高専選手権大会は8月28、29日新潟県柏崎市の柏崎高技場で行われる。
初大会とあって、どの程度の参加校があるか心配されていたが、現在ハンドボール部を設けていると予想される全国32校のうち半数にあたる16校がエントリー、関係者を喜ばせている。

〔第1回全国高専選手権参加校〕

秋田高専、一関高専（岩手）、長岡高専（新潟）、福井高専、富山高専、茨城高専、東京高専、育英高専（東京）、桐蔭学園高専（神奈川）豊田高専（愛知）、鈴鹿高専、鳥羽商船高専（ともに三重）、大阪府立高専、明石高専（兵庫）、宇部高専（山口）、高知高専。

近畿高校選手権

桃山学院みごとな躍進　女子は大谷

第17回近畿高校選手権は7月22日から24日までの3日間、大阪・府立、市立両体育館に6県の代表男子22、女子16校が参加して開かれた。

男子は、各県の実力均衡が目立ち、好内容を展開したが、大阪の新進・桃山学院がインターハイ予選の好調をそのまま持ちこんで勝ちあがり、決勝でも武庫工(兵庫)の反撃をかわして快勝、初の栄冠を手にした。大阪代表の優勝は3年連続8度目。

女子はインターハイ代表校がさすがに安定した力を示し上位へ進出、決勝では大谷（大阪）が、県神戸商（兵庫）を押し切って2年ぶり5度目の優勝を飾った。大阪代表の優勝は2年ぶり10度目。大阪の男女制覇は2年ぶり6度目のこと。

▽男子1回戦

富田林(大)13―5県兵庫工(兵)

伏見工(京)9―5米原(滋)

初芝(大)18―15奈良(奈)

明石南(兵)10―8安曇川(滋)

那賀(和)8―5洛星(京)

天理(奈)13―7市和歌商(和)

▽同2回戦

佐野工(大)10―5富田林

武庫工(兵)11―3伏見工

八幡工(滋)10―9初芝

御坊(和)13―9城南(京)

桃山学院(大)18―10明石南

添上(奈)9―4那賀

天理9―6嵯峨野(京)

寝屋川(大)12―8報徳(兵)

▽同準々決勝

武庫工 13（5―6、5―4、……、2―1、1―1）12 佐野工

八幡工 8（5―2、3―5）7 御坊

桃山学院 16（9―5、7―7）12 添上

天理 12（5―4、7―5）9 寝屋川

▽同準決勝

武庫工 16（6―6、10―7）13 八幡工

桃山学院 17（7―4、10―5）9 天理

▽同決勝

桃山学院 15（8―5、7―5）10 武庫工

▽女子1回戦

甲子園学院(兵)8―3天王寺(大)

神戸女商(兵)8―6西京商(京)

大谷(大)14―1守山女(滋)

粉河(和)22―3桜井商(奈)

住吉学園(大)8―6彦根西(滋)

県神戸商(兵)16―6京都女(京)

明徳(京)9―3御坊(和)

添上(奈)11―7鈴蘭台(兵)

▽同準々決勝

神戸女商 7（4―1、3―3）4 甲子園学院

大谷 11（6―3、5―1）4 粉河

県神戸商 8（6―4、2―2）6 住吉学園

添上 6（2―1、4―3）4 明徳商

▽同準決勝

大谷 9（2―2、7―1）3 神戸女商

県神戸商 14（6―1、8―3）4 添上

▽同決勝

大谷 11（7―2、4―3）5 県神戸商

四国高校選手権

新居浜勢（愛媛）タイトルを奪還

第23回四国高校選手権は7月21、22の両日愛媛・松山北高で行われ男女とも愛媛県勢が覇権を握った。

男子は、予想どおり新居浜工（愛媛）と坂出工（香川）の優勝争いとなり、前半優位に立った新居浜工が、終盤、坂出工の反撃をふり切り3年ぶり20度目のタイトル獲得。

女子は、有力とみられた新居浜商(愛媛)と、三本松(香川)が準決勝で激突、接戦の末、新居浜商が勝ち、決勝でも池田(徳島)を破り2年ぶり7度目の優勝を遂げた。なお、女子で最近めずらしい零封試合が3回記録された。

▽男子1回戦（=準々決勝）

坂出工(香川) 26（12―3、14―1）4 徳島東工(徳島)

松山工(愛媛) 13（7―5、6―3）8 追手前吾北(高知)

新居浜工(愛媛) 17（10―5、7―4）9 幡多農(高知)

三本松(香川) 23（13―2、10―3）5 城北(徳島)

▽同準決勝

坂出工 10（3―5、7―4）9 松山工

新居浜工 8（4―1、4―4）5 三本松

▽同位決定戦

三本松 11（4―5、7―3）8 松山工

▽同決勝

新居浜工 10（6―5、4―3）8 坂出工

▽女子1回戦（=準々決勝）

池田(徳島) 9（2―4、7―2）6 新居浜東(愛媛)

新居浜商(愛媛) 16（9―0、7―0）0 辻(徳島)

三本松(香川) 22（14―0、8―0）0 高知西(高知)

高松南(香川) 10（6―3、1―4、……、2―1、1―1）9 城山(高知)

▽同準決勝

中学生も各地で熱戦

第3回東北中学生大会は、全国大会の東北予選を兼ねて8月3日盛岡市で行われ、男子は黒石野（岩手）、女子は二瀬（福島）が圧倒的な強味を示した。参加は男女とも各4県の代表。

▽男子準決勝（＝1回戦）

東仙台（宮城）15（8―6　7―2）8 小川（福島）

黒石野（岩手）20（9―6　11―1）7 野辺地（青森）

▽同決勝

黒石野 11（6―6　5―3）9 東仙台

▽女子準決勝（＝1回戦）

二瀬（福島）25（12―3　13―1）4 野辺地（青森）

黒石野（岩手）5（3―2　2―0）2 上杉山（宮城）

▽同決勝

二瀬 21（9―0　12―0）0 黒石野

◇　◇　◇

第3回九州中学生大会は、全国大会の九州予選を兼ねて7月27、28日の両日鹿児島県隼人町営体育館で行われ、男子は戸町（長崎）が決勝でマリスト学園（熊本）を大接戦の末降し、女子は小川ク（熊本）が優勝した。参加は男子が7県12校、女子が6県9校。

▽男子1回戦

加治木（鹿児島）11（6―6　5―3）9 志徳（福岡）

五十市（宮崎）20（6―10　14―5）15 相知ク（佐賀）

大野スポーツ少年団（長崎）14（7―3　7―2）5 安岡（沖縄）

マリスト（熊本）22（10―2　12―1）3 神埼ク（佐賀）

▽同準々決勝

戸町（長崎）25（13―2　12―2）4 加治木

小川ク（熊本）17（10―5　7―3）8 五十市

国分（鹿児島）14（6―3　8―6）9 大野スポーツ少年団

マリスト 13（9―4　4―5）9 吉野（福岡）

▽同準決勝

戸町 18（8―10　10―5）15 小川ク

マリスト 13（7―4　6―7）11 国分

▽同決勝

戸町 15（7―8　8―6）14 マリスト

▽女子1回戦（1試合）

浦添（沖縄）9（4―1　5―3）4 別府青山（大分）

▽同準々決勝

小川ク（熊本）27（13―1　14―1）2 浦添

大野スポーツ少年団（長崎）10（5―4　5―1）5 加治木（鹿児島）

川辺南（鹿児島）29（16―1　13―2）3 神埼町青少年ク（佐賀）

氷川（熊本）15（9―1　6―2）3 大野石盛ク（長崎）

▽同準決勝

小川ク 9（8―3　1―2）5 大野スポーツ少年団

氷川 11（4―3　7―4）7 川辺南

▽同決勝

小川ク 11（5―5　6―3）8 氷川

◇　◇　◇

このほか、関東大会（7月・栃木）は、男女とも神奈川―茨城の優勝争いとなり、男子は左近山（神奈川）が多彩な組織攻撃で速攻の麻生一（茨城）を破り初優勝。

女子は、逆に茨城の玉造が体力を活かして、左近山を押し切った。

▽男子決勝

左近山（神奈川）10（4―1　6―4）5 麻生一（茨城）

▽女子決勝

玉造（茨城）9（4―2　5―2）4 左近山（神奈川）

また、北海道大会（7月・札幌＝男子のみ）は、今年も釧路勢が強く、釧路北中の優勝となった。

▽決勝

釧路北 17（10―4　7―5）9 函館旭

池田 13（9―2　4―1）3 高松南

新居浜商 3（1―1　2―1）2 三本松

▽同3位決定戦

三本松 12（5―0　7―0）0 高松南

▽同決勝

新居浜商 10（7―3　3―1）4 池田

九州高校選手権

久留米工と熊本女商勝つ

第20回全九州高校選手権は7月22、23の両日別府市で行われ、男子は、インターハイ開催を控えた福岡勢が強味を示し、久留米工×若松の決勝から、久留米工が安定した攻守で初優勝。

女子は予想どおり熊本女商が好調に勝ち進み、決勝でも国分実業（鹿児島）を押しまくり、2年ぶり2度目の優勝を飾った。

久留米工、熊本女商とも今春3月の九州高校生選抜につづく2冠

男子で福岡代表の優勝は3年連続7度目、女子で熊本代表の優勝は2年ぶり13度目のこと。

▽男子準決勝

久留米工（福岡）15―10 済々黌（熊本）

若松（福岡）18―16 大分東（大分）

▽同3位決定戦

済々黌 18―17 大分東

▽同決勝

久留米工 17（11―7　6―4）11 若松

▽女子準決勝

国分実業（鹿児島）8―6 大分東（大分）

熊本女商（熊本）10―8 別府青山（大分）

▽同3位決定戦

大分東 15―6 別府青山

▽同決勝

熊本女商 10（5―2　5―2）4 国分実業

（この記録は読者・加藤俊行氏提供の西日本新聞より掲載）

日韓高校、ことしは中止

日本体協は、8月16日東京で「今年の日韓高校スポーツ交歓競技会に参加を予定していた日本選手団の派遣を中止する」と発表した。

これは8月15日に起った朴大統領狙撃事件の不幸に哀悼の意を表するためで、各報道関係が伝えたところによれば、大韓体育会も同日「ことしの大会を中止する」ことに決めた。

同競技会はハンドボールなど9競技が8月22日から韓国・釜山市で開かれる手ハズになっていたもので、ハンドボールは第25回全日本高校選手権（別掲）の優勝校男・久留米工（福岡）、女・大谷（大阪）が代表に決まっていた。

海外トピックス

杉山 茂

チェコが優勝を飾る
〜ポーランド女子国際〜

モントリオールを控えて、今シーズンは女子の国際トーナメントがかなり多くなるだろう、という声を裏づけるように、本格的シーズン開幕を前に、早くも8月なかばポーランドで3国対抗が行われた。

参加したのはハンガリー、ポーランド(2チーム)、チェコの中堅クラス。

結果はチェコがマチソーバの活躍で、世界選手権上位のハンガリーに勝ち、ポーランドAと引き分けて優勝した。

ハンガリーでは、いぜんB・トースが攻撃の中心、ポーランドはドレッセルがやはりおとろえぬシュート力を見せている。

なお、女子国際大会は9月17日からのユーゴ国際をはじめ、ひと月1〜2回程度のビッグトーナメントが予定されている。

ポーランド 21（10—5, 11—7）12 ポーランドB
チェコ 11（6—7, 5—3）10 ハンガリー
チェコ 11（7—6, 4—5）11 ポーランド　引き分け
ハンガリー 11（6—4, 5—3）7 ポーランドB
ハンガリー 18（10—7, 8—7）14 ポーランド
チェコ 13（8—6, 5—5）11 ポーランドB

【順位】①チェコ②ハンガリー③ポーランド④ポーランドB

モントリオールの会場決まる

2年後のモントリオールオリンピック・ハンドボール会場ができあがった、といっても新設ではなく、既存のアリーナを転用してのもの。

ミュンヘンの時は、ほとんどの施設が新しく造られたもので話題となったが、モントリオールは簡素化、合理化が強まっている。ハンドボールの主会場となる「パウル・ソウベ・センター」は写真のように五千人収容のこじんまりとしたもの。

造りからお判りの読者もいると思うが、ふだんはカナダの人気スポーツ、アイスホッケーに使われている。

はたして、この舞台に日本の男女が勇姿を現すことができるかどうか、モントリオールまでであと692日である。

モントリオール五輪ハンドボール会場となるパールソーベセンター

インド洋の小島で国際試合

フランスのスポーツ紙"レ・キップ"によると、7月末ルーマニアとフランスが滞同してレユニオン島（フランス海外県）へ遠征、首都サンドニなどで4試合を行った。レユニオン島といっても、すぐにお判りになるかたは少ないだろう。マダガスカルの東方、インド洋に浮かぶ島国だ。

地図で見れば見るほど、ずいぶん遠い所へ遠征したものだと思うがルーマニアは世界選手権優勝時の主力を送りこんでいる。スコアは14—10、22—20、18—13、17—13でルーマニアの4連勝。

日本のハンドボールを世界の最高峰へ!

（協賛者御芳名・順不同）

大阪体大が男女とも連勝

第15回 西日本学生選手権

7月23日から26日までの4日間山口県体育館に、東海以西の4学連の代表が集まり開かれた。

男子は、関西1位の大阪体大が5年連続優勝を目指して順調に勝ち進んだ。

一方、このところ躍進めざましい九州1位の九州産大もダークホース群を退けて、昨年につづき決勝へ進出、大阪体大と熱のこもった試合をくりひろげたが、大阪体大の巧みな試合運びに一歩をゆずった。

大阪体大はこれで4連勝、関学（関西）、同志社（関西）のもつ優勝記録（3回）を上廻った。

5回目を迎えた女子は6校が出場、予選ラウンドの勝者3校によって決勝リーグが争われたが、大阪体大（関西）が、武庫川女（関西）に関西学生春季の雪じょくをはたし、山口大（中四国）も制して2年連続優勝を遂げた。大阪体大の男女制はは昨年につづき2度目

▽男子準々決勝

大阪体大（関西） 26（12−3 14−1）1 山口大（中四国）

大阪経大（関西） 11（6−7 5−3）10 中京（東海）

名城（東海） 31（14−3 17−2）5 広島工大（中四国）

▽同準決勝

九州産大（九州） 32（14−5 18−3）8 桃山学院（関西）

大阪体大 17（8−4 9−5）9 大阪経大

九州産大 12（7−5 5−5）10 名城

▽同決勝

大阪体大 16（8−5 8−4）9 九州産大

▽女子予選ラウンド（3試合）

大阪体大（関西） 10（4−1 6−3）4 中京女（東海）

武庫川女（関西） 6（3−3 3−3 … 0−0 0−0）6 中京（東海）

引き分け

抽せんで武庫川女大の勝ち。

山口大（中四国） 8（3−4 5−3）7 福岡教大（九州）

▽同決勝リーグ

大阪体大 8（4−4 3−2）6 武庫川女

武庫川女 10（3−2 7−1）3 山口大

大阪体大 13（7−2 6−2）4 山口大

【順位】①大阪体大②武庫川女③山口大

九州産大の好調つづく

第24回九州地区大学体育大会ハンドボール競技（男子のみ）

▽1回戦

九州産大（福岡） 33（21−6 12−8）14 大分大（大分）

長崎大（長崎） 33（14−0 19−6）6 東和（福岡）

鹿児島大（鹿児島） 17（9−9 8−6）15 宮崎大（宮崎）

福岡教大（福岡） 20（9−8 11−5）13 沖縄国際大（沖縄）

福岡大（福岡） 17（8−3 9−11）14 熊本大（熊本）

西南学院（福岡） 25（13−10 12−6）16 九州工大（福岡）

長崎造船（長崎） 18（10−9 8−2）11 久留米工短大（福岡）

熊本商大（熊本） 20（10−5 10−9）14 福岡工大（福岡）

▽準々決勝

九州産大 40（19−4 21−5）9 長崎大

福岡教大 16（6−8 10−3）11 鹿児島大

福岡大 24（10−6 14−10）16 西南学院

熊本商大 20（19−4 11−5）9 長崎造船

▽準決勝

九州産大 23（8−3 15−9）12 福岡教大

熊本商大 25（13−5 12−13）18 福岡大

▽3位決定戦

福岡教大 23（7−4 16−1）5 福岡大

▽決勝

九州産大 27（14−3 13−7）10 熊本商大

15日名古屋で学生東西対抗

第24回（女子第5回）全日本学生選抜東西対抗は、**9月15日名古屋**の愛知県体育館で、学生界の優秀選手によって争われるが、全日本学連はこのほど東軍メンバーを次のように発表した。西軍は8月31日に決まる。

○……**東　軍**……○

【男子】▽GK柴田（中央）、柴田（法政）▽FP松本、上村、松下清、佐野、大熊、蒲生（以上中央）、脇若、菊池（以上早稲田）、村田（法政）、菅野（日体）、玉村（金沢工大）、永元（旭川教大）、東北学連選出者（1名）は未定。

【女子】▽GK鍋田（東女体）、田草川（日女体）▽FP松本、坂本、菅井、寺尾、藤山（以上日体）、西田赤岸、橘（以上東女体）、永沢、山田（以上東京学芸大）

大学定期戦

▼第26回京大−慶応定期戦（6月29日・京大体育館）

慶応 15（9−5 6−8）13 京大

▼第21回甲南−慶応定期戦（6月30日・京大体育館）

慶応 15（6−8 9−6）14 甲南

28日から関東学生　関東学連は秋のリーグ戦（1・2部及び女子）の日程を次のように決めた

△9月28、29日、10月5、12、33、26、27日＝以上7日間、会場は駒沢屋内球技場または駒沢体育館

三春台ク、東花クが連続優勝

各地の記録

第4回関東クラブ選手権は7月13、14日の両日東京調布市・東京重機工業グランドに、男子8、女子5チームが参加して行われた。

男子は有力とみられた三春台ク（神奈川）とAOK栃木が緒戦で顔を合せ、三春台クが前半の優位を守って制勝、順調に決勝へ進出。三景OBを中心に編成されているサンクラブ（東京）を破り3連勝を遂げた。

女子は、2連勝を狙う東花ク（東京）が巧みな試合運びで水郷ク（千葉）らをおさえた。

なお、男女とも1回戦の敗者が2部と称して別のトーナメントを組んだが、男子はAOK栃木、女子は全神奈川が1位だった。

▽男子1回戦（＝準々決勝）
サン・ク（東京） 22（8―4、14―7）11 日川ク（山梨）
鉾田ク（茨城） 13（7―4、6―6）10 曙ブレーキ（埼玉）
前橋商OB（群馬） 18（6―9、12―7）16 清水ク（千葉）
三春台ク（神奈川） 14（6―2、8―8）10 AOK栃木（栃木）
▽同準決勝
サン・ク 31（18―8、13―3）11 鉾田ク
三春台ク 26（14―9、12―10）19 前橋商高OB
▽同決勝
三春台ク 22（12―5、10―7）12 サン・ク
▽女子1回戦（1試合）
東花ク（東京） 19（8―1、11―4）5 麻生高OB（茨城）
▽同準決勝
水郷ク（千葉） 8（4―4、4―0）4 全神奈川
東花ク 11（5―3、6―3）6 前橋ピジョンズ（群馬）
▽同決勝
東花ク 14（6―2、8―3）5 水郷ク
▽2部・男子1回戦
日川ク 27―12 曙ブレーキ
AOK栃木 22―8 清水ク
▽同決勝
AOK栃木 24―8 日川ク
▽同女子決勝
全神奈川 15―5 麻生高OG

沖縄教員、延長で勝つ

▼第1回沖縄県一般選手権（7月・沖縄高）
▽男子準決勝
沖縄教員 31―21 興南イーグルス
那覇商OB 15―16 チューリップス
▽同決勝
沖縄教員 28（12―12、11―11……3―3、2―1）27 那覇商OB
▽女子決勝
沖縄国際大 16（9―3、7―10）13 小禄OG

茨城国体県予選①（報告分のみ）

▼広島・一般男子1回戦（3試合）
日本鋼管福山 棄権 修道ク
日本発条広島 16―14 呉造船
三菱レ大竹 29―10 菊翔会
▽同準決勝
日新製鋼呉 25―6 日本鋼管福山
三菱レ大竹 27―11 日本発条広島
▽同決勝
三菱レ大竹 14―9 日新製鋼呉
▽一般女子（選考試合）
広島選抜A 9―0 広島選抜B
▽高校男子（選考試合）
呉選抜 9―0 広島選抜
▼東京・一般男子1回戦（3試合）
ジューキ・ク 11―13 友四会
安田生命 17―12 荏原製作所
中大付ク 不戦勝 三陽商会
▽同準決勝
三景 25―12 ジューキ・ク
安田生命 35―16 中大付ク
▽同決勝
三景 34―16 安田生命
▼大阪・一般男子準々決勝
湧永薬品 12―0 クラブ碰骨
都島工ク 27―12 東住吉ク
レインボウ 26―16 美津濃
大山商会 28―10 雪陵ク
▽同準決勝
湧永薬品 30―9 都島工ク
大山商会 24―7 レインボウ
▽同決勝
湧永薬品 21―9 大山商会
▽一般女子1回戦（1試合）
住学ク 9―4 大和銀行
▽同準決勝
住学ク 7―5 大谷ク
寝屋川ク 15―4 大阪スターズ
▽同決勝
住学ク 10―7 寝屋川ク
▼愛知・高校1次予選男子準々決勝
豊橋工 17―9 時習館
名古屋市工 14―13 豊橋南
市工芸 13―11 安城
桜台 19―10 一宮
▽同準決勝
豊橋工 11―10 名古屋市工
桜台 18―9 市工芸
▽同決勝
豊橋工 15―14 桜台
▽同女子準々決勝
市邨学園 10―3 半田商
岩津 11―2 名古屋商
安城学園 14―4 蒲郡
国府 8―4 名女大付
▽同準決勝
市邨学園 4―3 岩津
安城学園 10―3 国府
▽同決勝
市邨学園 17―7 安城学園
▽同2次（最終）予選男子1回戦
名城大付 19―11 豊橋工
名南工 7―6 桜台
▽同決勝
名南工 17―10 名城大付
▽同女子決勝
市邨学園 8―4 高蔵
▼奈良・高校男子準々決勝
添上 36―4 橿原学院
生駒 11―10 榛原
奈良 24―4 正強
畝傍 14―13 一条
▽同準決勝
奈良 10―5 畝傍
添上 23―4 生駒
▽同決勝
奈良 14―12 添上
▽高校女子1回戦（3試合）
桜井商 11―10 十津川
郡山 11―2 短大付
添上 12―7 生駒
▽同準決勝
一条 15（延）11 桜井商
添上 10―7 郡山
▽同決勝
添上 11―3 一条
▼岩手・一般男子決勝
盛岡商友会 25（12―8、13―5）13 白亜ク
▽高校男子決勝
盛岡商 13（6―3、7―3）6 盛岡四
▽同女子決勝
花巻南 5（2―1、3―1）2 盛岡二

お詫び

本誌7月号、8月号の表紙右上の通巻号数がいずれも120号となっていました。

ここに、お詫びして訂正いたします。（編集部）

中学大会記録

◇茨城・第10回県民総体中学の部（6月、笠間）参加＝男22、女17

▽男子準々決勝
水海道 16—12 古河二
土浦一 22—14 小川北
茎崎 31—20 麻生
麻生一 26—12 岩瀬西

▽同準決勝
床生一 13—12 茎崎
水海道 16—11 土浦一

▽同決勝
床生一 20（8—5、12—2）7 水海道

▽女子準々決勝
玉造 11—6 水海道
結城 17—12 麻生一
千代田 13—7 境一
水海道西 11—4 北浦

▽同準決勝
玉造 10—6 結城
水海道西 12—7 千代田

▽同決勝
玉造 10（5—3、5—1）4 水海道西

◇香川・第3回県大会（6月、高松南高）参加＝男10、女6

▽男子準々決勝
香川 9—4 屋島
附属高松 11—8 竜雲
桜町 16—6 勝賀
山田 16—5 塩江

▽同準決勝
香川 15—6 附属高松
山田 16—7 桜町

▽同決勝
香川 6（2—1、4—4）5 山田

▽女子1回戦（2試合）
香東 15—5 香川
塩江 8—6 附属高松

▽同準決勝
香東 5—4 光沢
山田 6—5 塩江

▽同決勝
香東 7（5—1、2—4）5 山田

◇広島・第3回県中学選手権（7月・呉二河中）参加＝男8のみ

▽準々決勝
東畑 14—4 神辺
修道 17—0 二河
長浜 14—9 甘日市
城北 10—9 警固屋

▽準決勝
東畑 7—5 修道
長浜 16—7 城北

▽決勝
長浜 11（6—3、5—6）9 東畑

◇愛知・第28回愛知県中学校総合体育大会(8月)参加＝男63、女52

▽男子決勝進出校決定リーグA組
東港 13—8 横須賀
東港 16—3 一宮中部
一宮中部 15—6 横須賀

▽同B組
大口 11—7 前芝
大口 19—7 上郷
前芝 20—8 上郷

▽同C組
名塚 17—10 三谷
名塚 18—4 東梅
三谷 13—7 東海

▽同D組
明豊 16—9 六ツ美
明豊 20—10 高蔵寺
六川美 17—15 高蔵寺

▽同決勝トーナメント1回戦
東港 14—9 大口
名塚 10—7 明豊

▽同決勝
東港 19（10—7、9—4）11 名塚

▽女子決勝進出校決定リーグA組
一宮南部 16—1 港北
一宮南部 12—6 形原
形原 9—7 港北

▽同B組
牟呂 13—3 名塚
牟呂 22—4 崇化館
名塚 10—6 崇化館

▽同C組
桜田 22—1 淑徳
桜田 20—6 春日井中部
淑徳 10—4 春日井中部

▽同D組
六ツ美 8—7 一宮北部
六ツ美 24—8 乙川
一宮北部 9—7 乙川

▽同決勝トーナメント1回戦
一宮南部 8—3 牟呂
六ツ美 14—11 桜田

▽同決勝
一宮南部 12（6—3、6—4）7 六ツ美

投書欄　明日への提言

全日本学生出場法に一考を

これは最近知ったことなのですが、全日本学生選手権に出場する各地学連の代表校の決定をほとんど、春または秋のリーグ戦の順位に資料を求めていることは、どういう理由によるものなのでしょうか。

なるほど、各地のリーグ戦は実力別のグループ分けがされており、学生日本一を決めるには上位校が集うのも当然ではありますが、学生チームは、卒業などで、実力の変動がめまぐるしく、必しも1部は2部より、2部は3部より強いとは限らないのです。

ところが、現行では、仮にどのように（客観的にみても…）強くても、所属学連で3部のろちは、全日本学生選手権には出られないのです。不合理だと思います。

1部上位はともかく、その他のワクに関しては、2部も3部も、すべての参加意思校によって予選を行い埋めるべきでしょう。5部まである関東を例にとれば、どのように強力なチームでも、新加盟校はもっともスムースに昇格をつづけたとしても全日本学生に出場できるのは3年目という状態は健全ではありません【東京・愛球児・学生】

☆……投稿歓迎。500字以内。匿名も可。〆切り日は特になし。

★編集後記

□……IHF会長の来日、中国ハンドボール界の動向、日韓高校大会の中止……。

わずか1週間ばかりの間に日本協会に〝国際問題〟の風が吹き抜けていきました。

事業の巨大化、国際化はこれまでにもいくどかお伝えしていましたが、今後はますます、海外の動きにどう対応するか、の感覚が斯界全体に望まれましょう。

□……夏の各種大会。いずれも盛況裡に幕を閉じたようです。注目の高専大会と教員養成大学研修会は、本誌〆切り後に開幕ですので、詳報は次号へまわります。

□……多くの期待を集めて東ドイツチームが来日。全日本戦4試合はいずれもTV中継という〝壮挙〟ですが多くのかたが、会場へ出向かわれることを期待します。あなたの試合評をぜひ本誌へ。（S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一二三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十九年八月二十五日印刷 昭和四十九年九月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代代(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百五十円
(年間購読料二千三百円)